

畿央大学

健康科学部
人間環境デザイン学科

第12回 卒業制作・論文作品集

卒業制作・論文作品集 12

畿央大学健康科学部
人間環境デザイン学科
2017

The 12th Graduation Works
Department of Environmental Design
Faculty of Health Sciences
Kio University

ご挨拶

第12回卒業制作・論文作品集には、この春卒業する人間環境デザイン学科の卒業制作と論文の作品が収録されています。この作品集の記録は卒業生たちの4年間の畿央大学における学びの到達点を示しています。

ここに収録されている作品は学内や大和高田市さざんかホールでも展示されました。展示会では、制作作品や論文ポスターを見ながら説明を受けました。作品の美しさや精巧さに驚くと共に、説明からは作品として仕上げる過程での試行錯誤や工夫が分かり、さらに作品に込められた「思い」も感じました。論文ポスターからはエビデンスに基づいて主張することへの努力を感じました。

この作品集に収録されている作品の写真や論文記録は、卒業時点での学生の皆さんの貴重な記録です。掲載されている作品や論文をみて、よくここまで上げることができたと思う人から、もっと完成度を高めることができたと思う人まで大きな幅があろうと思いますが、一度しかない人生の卒業時点での到達点であることには違いがありません。

卒業される皆さんは、これからは社会の中で人の生活に関係する具体的な物から抽象的なものを「デザインする」分野で活躍されることになります。人のためにデザインし経験を積むことで、さらに大きく成長されることを期待します。建学の精神の「美をつくる」を目指し、人に感動を与えてください。何年後かに、この作品集を開くことがあれば、その時にはご自身の成長を確認することができ、さらなる成長につながると思います。その意味において、この作品集はお一人おひとりにとって「宝物」です。

最後に、卒業までの間ご指導いただいた先生方にお礼と、卒業後も引き続き良き関係を保っていただくことを願ってご挨拶とさせていただきます。

畿央大学 学長
冬木 正彦

目次

③ 学長ご挨拶



制作

- | | | |
|---|---------------|--|
| ⑧ | 学長賞 中村 大志 | 無限成長美術館 ～国立西洋美術館のその後～ |
| ⑫ | 優秀賞 荒木田 夢華 | 導管と光帯 ～志摩コンベンションセンター～ |
| ⑭ | 優秀賞 前垣 祥子 | 幸せの花実 -下市の素材を使って- |
| ⑯ | 魚瀬 千遥 | いきいきの森 |
| ⑰ | 太田 照 | 「道路斜線制限(建築基準法)」改正案 ～中心市街地の沿道建物形態規制変更の一提案～ |
| ⑱ | 金森 百花 | コンテナアトリエ住居-HAUCHICCO- |
| ⑲ | 川井 あすか | お橋見×お花見 |
| ⑳ | 久斗 彩美 | 長く住み続ける幼老共生のまちづくり |
| ㉑ | 桑原 紗希 | Yarn chair (糸の椅子) |
| ㉒ | 末房 大志 | ふさふさ山のhighhighタウン |
| ㉓ | 武部 美沙稀 | 野良の方舟 ～ほどほど田舎暮らし～ |
| ㉔ | 谷 映実 | TANIORI CHAIR |
| ㉕ | 辻村 誠 | ケナフで歩こう |
| ㉖ | 中澤 安紀 | seminario |
| ㉗ | 萩原 頌 松池 純平 | アラジンと魔法のランプの世界 -付属幼稚園「生活発表会」- |
| ㉘ | 葉山 理子 | 命を生きるSun院 |
| ㉙ | 引地 彩矢架 | アマチュア音楽家の城 |
| ㉚ | 久吉 茜 | ローズウィンドウが輝く礼拝堂 |
| ㉛ | 平井 みのり | another box ～女性のためのシェアマンション～ |
| ㉜ | 平瀬 将大 | 新、海の時空館 |
| ㉝ | 福森 侑希 | 平知盛 最後の道 |
| ㉞ | 藤田 笑美 | 真綿に包まれて |
| ㉟ | 藤田 直樹 | 花の名は。 |
| ㊱ | 前川 恵 | 一日一寸の輝き ～佐賀錦で織りなす雛人形～ |

- | | | |
|----|--------|--------------------------------------|
| 37 | 益田 翔平 | 宿泊できる小児病院 |
| 38 | 松岡 あかり | 街で支える駅 |
| 39 | 松下 由依 | 針と糸 手仕事 “刺し子” のぬくもり |
| 40 | 松永 亜弓 | 建築のあかり |
| 41 | 松葉 笙大 | 宇治の回遊美術館 |
| 42 | 宮木 萌依 | NITSUMERU 関屋空家コンバージョン ～コミュニティハウス～ |
| 43 | 森谷 郁未 | Dia Higashi Osaka |
| 44 | 森本 真子 | しあわせなら絹たたこ |
| 45 | 安川 侑希 | 琵琶湖セミナーシップ ～学生のためのセミナーハウス～ |
| 46 | 矢野 紗由里 | ひかりの展望台 ～六甲山上ステーション再開発～ |



論文

- | | | |
|----|-------------------------|--|
| 48 | 優秀賞 田村 光 | アニメの聖地巡礼を用いた地域活性化についての研究 |
| 50 | 磯崎 典子 束花 颯斗 吉川 和輝 | 大学附属高校における制服に関する研究 |
| 52 | 桂 建己 | 証明写真における肌色と背景色に関する研究 —男子大学生の就職活動時の用いる証明写真— |
| 54 | 木村 有弥 | 布地色が柔軟剤の香りの印象に与える影響 |
| 56 | 楠田 さおり | まちづくりワークショップ導入初動期において 市民の参加意識向上に関する研究 ～大和高田市のまちづくりワークショップを事例として～ |
| 58 | 齋藤 圭佑 | 地域型ロックフェスにおける地域活性化のあり方に関する研究 —京都大作戦を事例として— |
| 60 | 佐野 真梨奈 有吉 舞香 | 証明写真における肌色と背景色に関する研究 —女子大学生の就職活動時に用いる証明写真を中心に— |
| 62 | 島田 咲紀 | 乾燥方法の異なる木材の香りとの経時変化 |
| 64 | 中島 隆輔 西森 裕十 | 地域活性化イベントと地域住民の関わり方に関する研究 |
| 66 | 仲谷 理沙 | 男子大学生の四季における睡眠と生活習慣 |
| 68 | 長井 詢 | 地域ブランドを創出する地場産業のあり方に関する研究 ～西脇市と広陵町を事例として～ |
| 70 | 丸岡 沙耶可 | 専育ママの自己実現を目指した 子育て支援事業のあり方に関する研究 |
| 72 | 制作風景 | |
| 74 | 講評会風景 | |
| 81 | 講評 | |



制作
works



無限成長美術館 ～国立西洋美術館のその後～

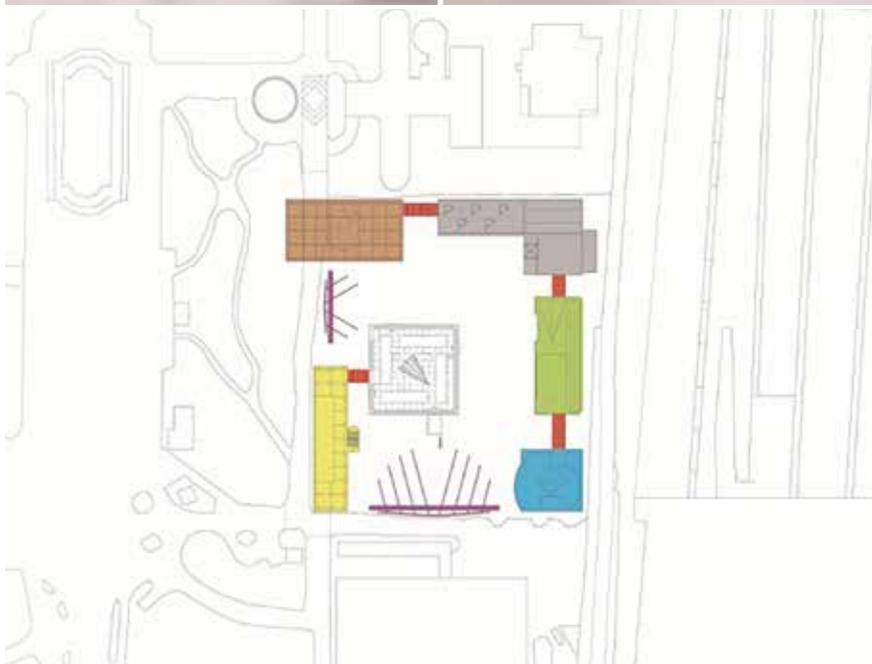
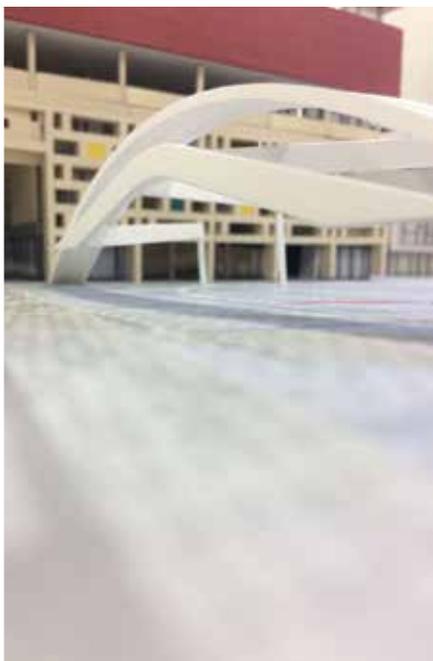
ル・コルビュジエは東京上野の国立西洋美術館を、中心から渦巻き状に無限に成長してゆく形式の美術館のプロトタイプとして設計した。コルビュジエ自身は遂にその「成長」を実現することはなかったが、もし彼がその機会を得ていたらと考え、大きく育った同館を構想した。彼の作品群を長期にわたって研究し、おそらく重視されたであろう「ピロティ」「屋上庭園」「モデュール」の三要素を全館の統一的なコンセプトとして、計画を行った。また、個々の建物のデザインにあたっては各コルビュジエ作品のモチーフを引用し、この地に足を運んだすべての人がコルビュジエの思想をすべて感じることができる世界で唯一の場所を目指した。



中村 大志

Taishi Nakamura

藤井ゼミ





サン・デザインの工場

<http://japanese.jp/news/105781>



ソヴィエト・パレス

http://www.wikiotai.jp/29_gozoskykzoooru.html



サヴォア邸

<http://jp.france.fr/ja/news/105731>



マルセイユのエコデザイン

<http://jp.oume.fr/ja/news/105731>



ラ・トゥーレット住居院

http://photozou.jp/photo_only/301077/193763487?size=1024#content



チャンディーガルの高等裁判所

<http://chanyo.s.d.jp/300A/06/27/18gbcourz/>



受賞のこぼ

四年間の集大成となる卒業研究で最優秀賞を頂いたことを大変嬉しく思います。それと同時に、アドバイスを下さった先生、友達、手伝ってくれた後輩には感謝の気持ちでいっぱいです。卒業研究に没頭する長い日々も良い経験でした。コルビュジエを長期間研究し多くの作品と対峙した私はようやく彼を卒業することができそうです。大学での四年間で苦しい時間も楽しい時間も経験できました。本当に、ありがとうございました。



導管と光帯 ～志摩コンベンションセンター～

誰も見たことのない新しい建築を生み出せれば・・・1年間、そう思い続けて過ごした。それまでも真摯に建築と向き合ってきたつもりだが、きっと足りなかったのは「挑戦することだったと思う。

「正しく」「上手く」設計するだけでは、もう一歩の前進ができないと感じたのだ。できあがった作品は充分なものにはならなかったし、得られた評価も必ずしも満足なものではなかった。

だが、私は「挑戦した」ことに意味があったのだと信じている。

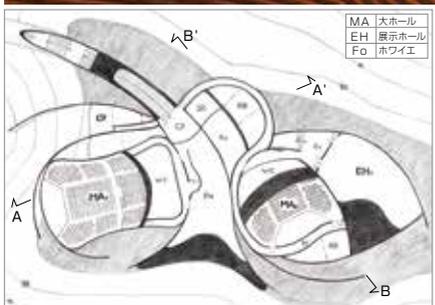
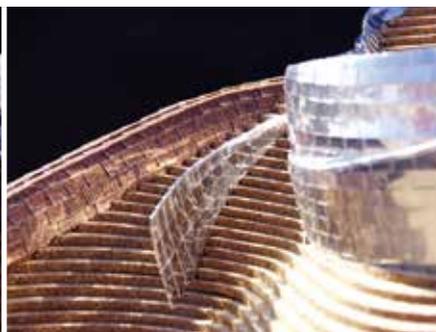
学生最後のこの作品はゴールではなく、これからの建築人生のための大切な一歩となったと思っている。



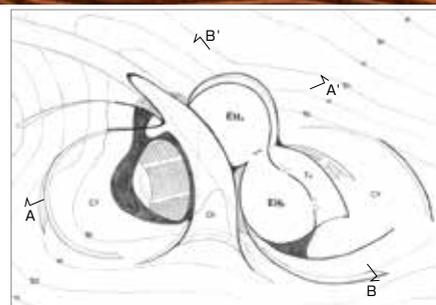
荒木田 夢華

Yumeka Arakida

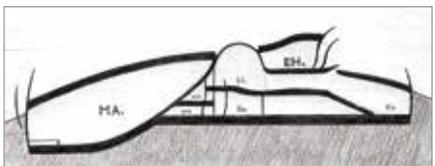
藤井ゼミ



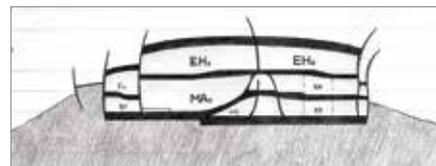
T.P.85m 平面図



T.P.95m 平面図



A-A' 断面図



B-B' 断面図



幸せの花実 一下市の素材を使ってー

初夏から育てた綿で糸を作り、実家のある下市の柿で作った柿渋液・地元で咲いた芍薬の花びらで糸を染め、織りを経てスカート、シャツ、ベスト、ベレー帽に。そこに柿渋液を塗ったバックを添え、身近な素材を有効活用した。



前垣 祥子

Sachiko Maegaki

村田ゼミ





いきいきの森

貧困や個食など、子どもの食生活に関する問題がクローズアップされています。そこで、食を通じて仲間や地域との関わりを深め、子どもの健やかな心とからだの発達を促すことを狙いとし、現在は有志によって行われることの多い子ども食堂を学童保育と複合させた施設として提案します。



魚瀬 千遥

Chiharu Uose

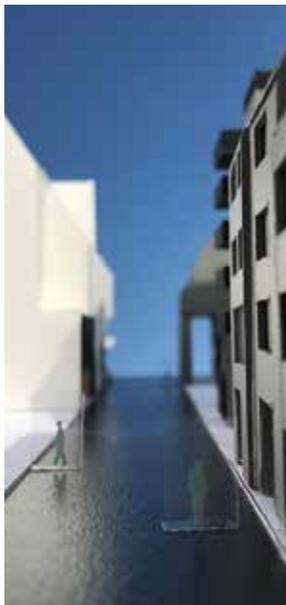
西山ゼミ

A 案

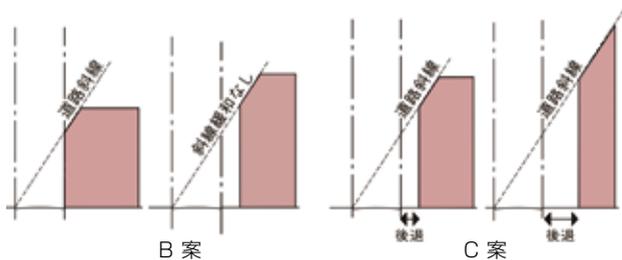


現法制下での未来予測

B 案

高さを抑える斜線を揃え
空の広がり確保する

C 案

高さを抑える斜線を揃え
更に強制的に建物を後退させる

「道路斜線制限（建築基準法）」改正案 ～中心市街地の沿道建物形態規制変更の一提案～

建築基準法の道路斜線制限は空の見える量を確保することが目的だが、セットバックによる緩和があるため必ずしも目的がはたされていない。これらを改善する改正法案を2つ考えた。

1. セットバック緩和を廃止する(B案)
2. 更に強制的に建物を後退させる(C案)

広く意見を聞くとC案が多く支持された。



太田 熙
Hikaru Ota

藤井ゼミ



コンテナアトリエ住居 - HAUCHICCO -

生活する中で、絵を描き、アートを生み出す。
コンテナ・アトリエ住居「HAUCHICCO」。
コンテナを積み重ねることによってできた空間をアトリエとして上手く活用する。
コンテナの中で宿泊をしながら、自分たちの作品に没頭できる。



金森 百花

Momoka Kanamori

三井田ゼミ



お橋見×お花見

ある先生は言った。橋は立派な建築だと。
橋は町と町をつなぎ、時には町の観光名所ともなる。
高田のシンボルである高田千本桜を活かし、
老朽化問題になっている静橋・桜橋の新たな橋を提案。
お花見についてお橋見なんてどうだろうか。



川井 あすか

Asuka Kawai

三井田ゼミ



長く住み続ける幼老共生のまちづくり

まちの中で住みかえが行えるまちづくりを提案します。
住みつなぐ工夫として、広陵町の特徴的なデザイン要素を取り入れ、
歴史ある町並みの連続性を持つことが、その土地の美しい景観を残すことに繋がります。
そこで広陵町に適したデザイン要素を考え、それに基づいて計画しました。



久斗 彩美

Ayami Kuto

三井田ゼミ



Yarn chair 〈糸の椅子〉

バーコードを使ってロッキングチェアをデザイン。
糸が連続して繋がっていき、後方ではねじていく美しさを表現した。
もともとロッキングチェアは体の弱い人の為に作られたユニバーサルデザインである。
座った状態から立ち上がりやすいカタチになっている。



桑原 紗希
Saki Kuwahara

加藤ゼミ



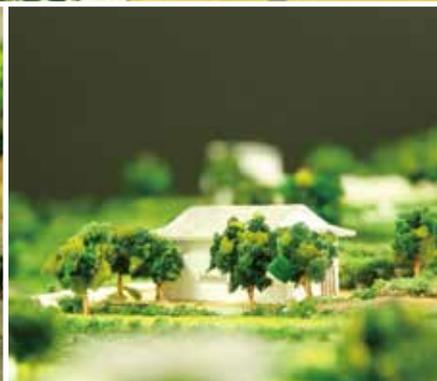
ふさふさ山の highhigh タウン

真面の山(斜面地)に街をつくる。街に存在する路地や階段、広場は人と自然との関わりを深く生み出す。井戸端会議のような少し集まって気軽に話すような、暖かい関係が街全体に広がれば、心地のいい街へ帰りたくなる・・・。



末房 大志
Taishi Suefusa

三井田ゼミ



野良の方舟 ～ほどほど田舎暮らし～

都会では田舎暮らしをしたいと考える人が増えている。一方、そのためには思い切った決断を迫られることも多く、実現しづらい。奈良には、都会から電車で約1時間のところに、素敵な自然に包まれた村々がある。この地に、無理なく田舎暮らしが十分楽しめる農房を提案した。



武部 美沙稀

Misaki Takebe

西山ゼミ



TANIORI CHAIR

山折り、谷折り、一枚の平面を折り紙のように折っていくことで出来上がる椅子、「TANIORI CHAIR」。

紙の暖かみが感じられるとともに、折って組み立てることで幼少期に折り紙で遊んだ記憶が甦ります。



谷 映実

Emi Tani

加藤ゼミ



ケナフで歩こう

ケナフは二酸化炭素を多く吸収し、リサイクルが可能な環境に優しい繊維である。紙や帽子、防臭剤、テントなど様々な利用がされている。私は、このようなケナフの可能性に魅力を感じ、素材の味やケナフの利点を生かした靴の制作をした。



辻村 誠
Makoto Tsujimura

村田ゼミ



seminario

現在、日本では少子高齢化の進行や都市部への人口集中により空き家が増え続けている。古民家といった伝統のある建築を残し、歴史的な建築に触れながら課題に没頭できる場として建築を学ぶ学生が利用する宿泊セミナーハウスを提案。



中澤 安紀
Aki Nakazawa

三井田ゼミ



アラジンと魔法のランプの世界 — 付属幼稚園「生活発表会」 —

子ども達が楽しみにしている生活発表会。
今年のテーマは「アラジンと魔法のランプ」
私達は子ども達が活き活きと役柄を演じ自分自身で
早く簡単に着替えることができる「衣装」を考えた。



萩原 頌 / 松池 純平
Sho Hagiwara / Junpei Matsuike

村田ゼミ



命を生きる Sun 院

「母親として生きる。助産師の生きがい。子どもが生まれる。」という三つの生がそれぞれの視点で使命を尊重出来る空間を提案した。産前産後ケアサポート、助産師活躍の場、子育て支援の充実により女性の一生に寄り添う産院とした。



葉山 理子

Riko Hayama

西山ゼミ



アマチュア音楽家の城

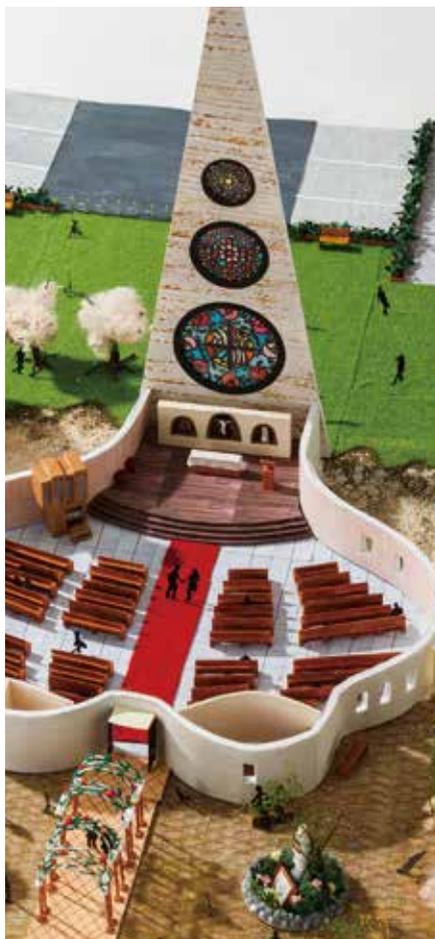
「楽器を練習する場所がない。演奏する場所がない。演奏する楽器がない。」
 音楽家のための施設。アマチュアから駆け出しのプロが利用する。
 大小様々なホールや練習室、楽器屋、宿泊所までを備えた複合型音楽施設。



引地 彩矢架

Ayaka Hikichi

藤井ゼミ



ローズウィンドウが輝く礼拝堂

大阪市東住吉区にあるカトリック教会の建て替えを提案しました。

ローズウィンドウという丸いステンドグラスがメインです。

入口の真正面に3つあり、一番大きいものはイエスキリストの誕生を表しています。



久吉 茜

Akane Hisayoshi

加藤ゼミ



another box ～女性のためのシェアマンション～

コンセプトは都会で働く女性のための部屋。
ライフスタイルに合わせた間取りの提案と、各屋上階には非日常を感じる庭、
趣味を楽しむことができるanother boxを配置。
日常空間では実用性を、非日常空間では癒しを与える設計を行った。



平井 みのり

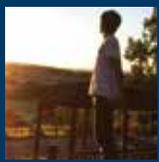
Minori Hirai

加藤ゼミ



新、海の時空館

大阪南港咲洲部に所在の海の時空館。
現在も存在するものの2013年に閉館し、廃墟のようになってしまっている。
そこで新たに再利用の為にリゾート宿泊施設としての改装案を計画した。



平瀬 将大
Shodai Hirase

三井田ゼミ



平知盛 最後の道

知盛の思いはどこにあるのだろう。
 辛かったはず、悲しかったはず、もっと生きたかったはず。
 でも、きっと彼は泣きながらも笑って逝った。
 そんな彼の生き様を表したかった。
 歌舞伎の演目のひとつ義経千本桜、その第二段目渡海屋と大物浦を題材に。



福森 侑希
 Yuki Fukumori

藤井ゼミ



真綿に包まれて

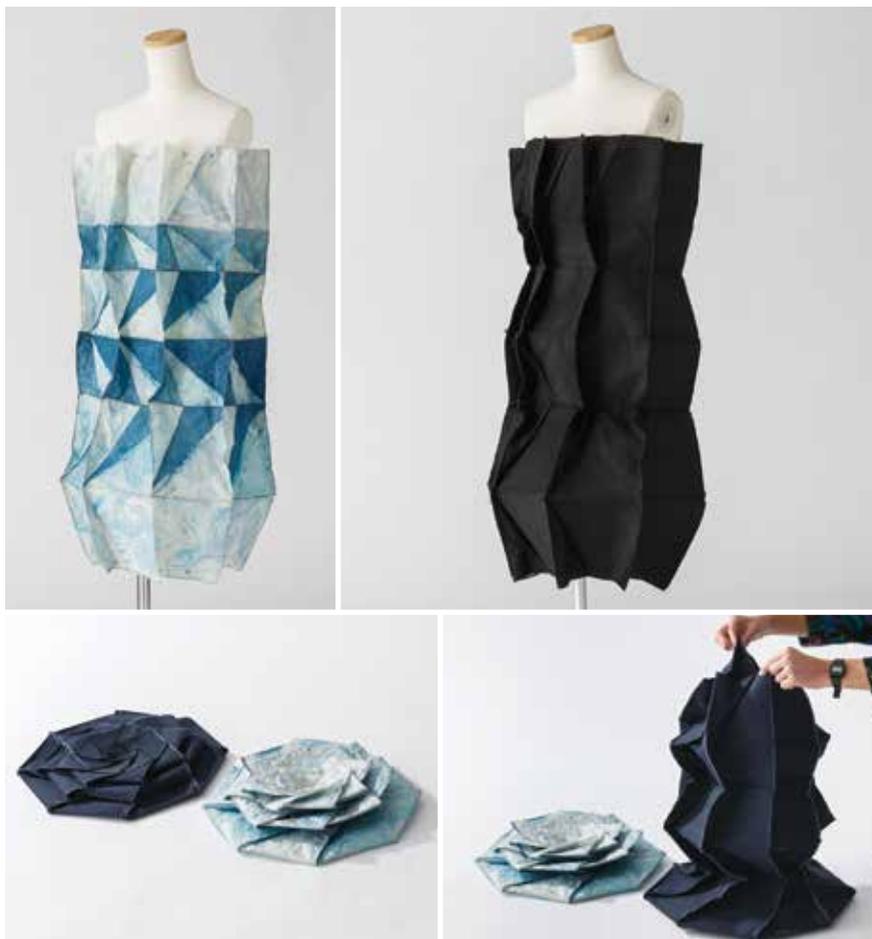
真綿は吸湿性、放湿性に合わせて保温性にも優れており、古くから布団綿や夜着などに使用されていた。そこで真綿を細く引き伸ばして糸にしそれを機織りで織り込み、それをキルトにしてさらに保温性を高めキルトと真綿の良さを生かした作品にした。



藤田 笑美

Emi Fujita

村田ゼミ



花の名は。

「ISSEI MIYAKE 1325」というブランドで、
 平面から立体へ山折りと谷折りを利用し変化するドレスを見て大変感銘を受けた。
 平面→立体→平面と容易に形を変え、その変化に驚きをもたらすようなドレスを制作した。



藤田 直樹

Naoki Fujita

村田ゼミ



一日一寸の輝き ～佐賀錦で織りなす雛人形～

授業で佐賀錦を体験し、繊細で根気がある織物だが
完成したときの美しさに魅力を感じた。

一日少量しか織ることが出来ないが、きらびやかで美しく、そして迫力がある。

そんな佐賀錦の魅力を活かして雛人形を制作した。



前川 恵

Megumi Maegawa

村田ゼミ



宿泊できる小児病院

遠方からのお見舞い、一時的な生活の移転、夜間のみのお来訪・・・
家族が状況に合わせて、子供のそばにいられるように設計した。
子供が安心して治療に向き合うためには、家族の支えが必要である。



益田 翔平
Shohei Masuda

藤井ゼミ



街で支える駅

無人駅の駅舎に地域で必要とされる施設を取り入れました。
この施設を利用する住民たちが、お茶や軽運動などを楽しみながら、
駅業務を補助することで、無人駅の不便を解消し、
地域貢献に参加できるように考えました。



松岡 あかり
Akari Matsuoka

西山ゼミ



針と糸 手仕事“刺し子”のぬくもり

『刺し子』は東北地方に伝わる伝統的な刺繍であり、かつて貴重だった布地を繰り返し補修し、長く大切に使う生活の過程で発達してきた。日々の生活の中で発展してきた『刺し子』を一人でも多くの人が興味もち、あらためて“衣服を大切に使い続ける”素晴らしさを伝えたい。



松下 由依
Yui Matsushita

村田ゼミ



建築のあかり

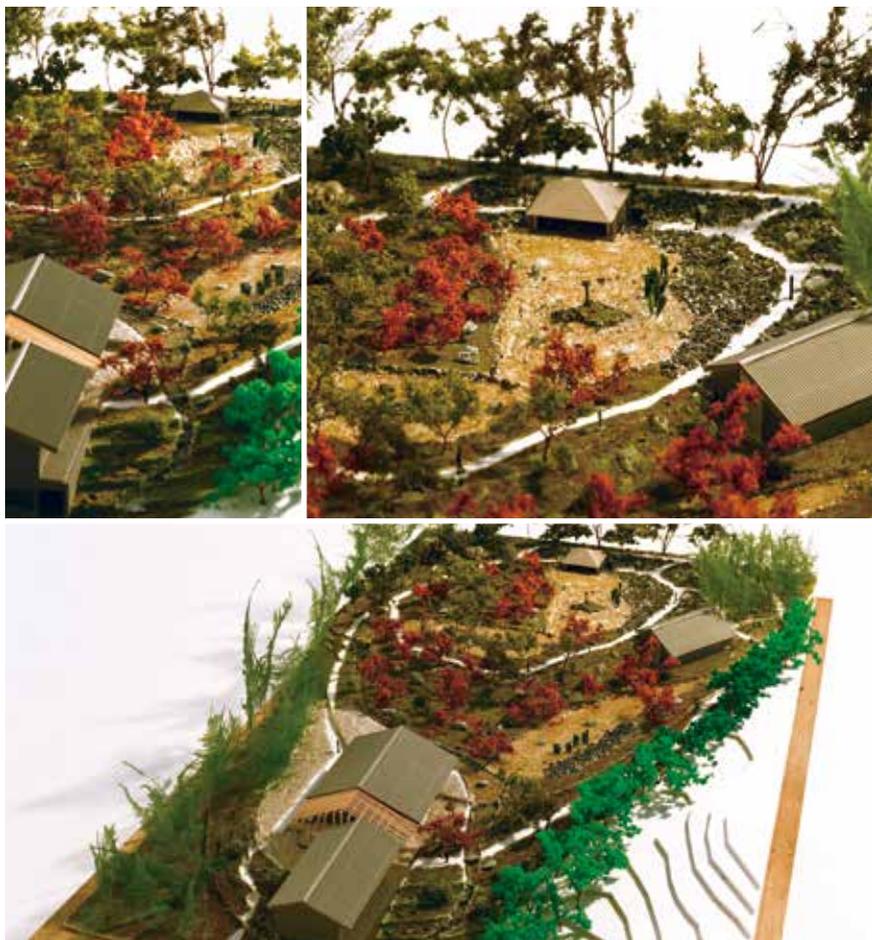
格子を用いて建築のような照明をつくりました。
KURA、MACHIYA、MATENROUの3種類です。



松永 亜弓

Ayumi Matsunaga

加藤ゼミ



宇治の回遊美術館

庭を散策しながら展示品を鑑賞していく美術館。庭は池泉回遊式庭園。季節が変わるにつれ庭は色を変化させる。建築は瓦屋根の大屋根が庭と調和し、ガラス張りの外観で、和風の庭と現代的要素の調和を図った。



松葉 笙大
Shouta Matsuba

藤井ゼミ



NITSUMERU 閑屋空家コンバージョン ～コミュニティハウス～

閑屋の桜ヶ丘地区の空き家の1つを活用、日常的なコミュニティ活動が行える場所へ。
人が集まる場所→話を「につめる」
作物を育てる→「煮詰める」
草花を育てる→「気軽に摘める」
3つの用途を持つコミュニティハウス、それが《NITSUMERU》。

宮木 萌依

Mei Miyaki

加藤ゼミ



Dia Higashi Osaka

[ツナグツナガル]

東大阪市のシビックコアに人々が集い、繋がる場所として複合施設を計画。

緩やかな曲線を描く路地を交差させ中央に辻をつくり、交差した奥に吹きぬける道を
さえぎるようにボリュームを移動させ人を中心に引き込むように配置した。



森谷 郁未

Ikumi Moritani

三井田ゼミ



しあわせなら絹たたこ

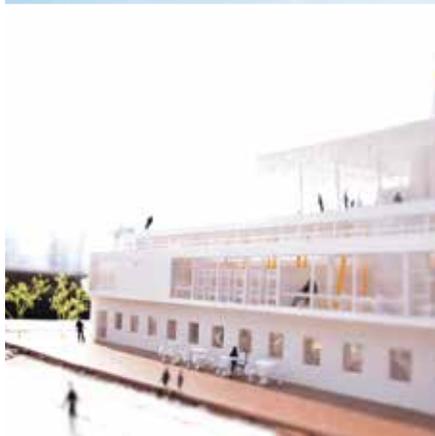
春から蚕を育て、繭から糸を引き、生地を織りウエディングドレスとベールを制作。
7本の針で生地同士を絡ませくっつけるニードルパンチという技法を使い、
絹特有の光沢を最大限に生かし、そしてオーガンジーで華やかさを演出した。



森本 真子

Mako Morimoto

村田ゼミ



琵琶湖セミナーシップ ～学生のためのセミナーハウス～

もっと楽しく快適な学生のためのセミナーハウスがほしい！
そんな考えから陸地と水辺に船を作りました。
琵琶湖のそよ風やゆっくりと時間が流れるような感覚を
肌で感じることができる水辺空間を提案します。



安川 侑希
Yuki Yasukawa

加藤ゼミ



ひかりの展望台 ～六甲山上ステーション再開発～

六甲山上駅にある天覧台(展望台)は、六甲山・摩耶山三大夜景スポットの一つであり、夜には1000万ドルの夜景が輝く。この景色をもっと多くの人に見てもらえるよう展望台をメインとした駅の再開発を提案する。



矢野 紗由里

Sayuri Yano

加藤ゼミ





田村 光

Hikaru Tamura

清水ゼミ

1. 背景と目的

昨今、多くの自治体でアニメの聖地巡礼を地域活性化事業の一つとする事例が見られる。

しかしアニメによる地域活性化事業を行っても、必ずしもその振興策が成功するとは限らないことは、先行研究で明らかとなっている。アニメの聖地巡礼の活用のみならず、地域活性化事業を円滑に進めるためには、様々な地域の実態を踏まえて議論する必要がある。

そこで、本研究では下記の3点について明らかにすることを目的とする。

- ①アニメの聖地巡礼と一般的な観光の違いを明らかにする
- ②成功事例として名高い滋賀県犬上郡豊郷町の「けいおん」の事例と、地域活性化を目的の一つとして製作された京都府京都市伏見区の「いなこん、恋いろは」（以下、いなこん）の事例を調査対象としてそれぞれの実態を明らかにする
- ③アニメの聖地巡礼を地域活性化に取り込む際の重要な視点を明らかにする

2. 研究方法

調査研究方法は下記の通りである。

①文献調査

- (ア)聖地巡礼の歴史を感慨
(イ)聖地巡礼の特徴と巡礼の決め手をまとめる

②ヒアリング調査

- (ア)滋賀県犬上郡豊郷町の「けいおん」について
・けいおんでまちおこし実行委員会
・ファンのグループ ・豊郷町役場
(イ)京都府京都市伏見区の「いなこん」について
・京都市新産業振興課 ・稲倉会

3. 聖地巡礼について

①聖地巡礼の歴史

聖地巡礼とはコンテンツツーリズムの1種で、アニメツーリズムとも呼ばれる。アニメやマンガのファンが作品の舞台を訪れることをいう。

アニメと地域活性化の歴史は表1の通りである。アニメの聖地巡礼が見られ始めた1970年代は、聖地が海外であったこともあり、1度しか訪れないのが主流だったが、1990年代になると聖地が国内に現れ、何度も訪れる形へ変化していった。その後、聖地巡礼を活用したまちづくりを行う地域が現れ、現在では、アニメの放送前から制作会社と協力して地域活性化を目的として製作する事例が見られるようになった。

アニメの聖地巡礼を用いた地域活性化についての研究

表1 アニメと地域活性化の歴史

| |
|--|
| 1950年～1960年代 「アニメの始まり～アニメの輸出」 1953年：テレビ放送開始 1963年：日本初の本格的なテレビアニメ「鉄腕アトム」が放送。 |
| 1970年～1980年代 「ロケハンと聖地巡礼の登場」 1974年：「アルプスの少女ハイジ」制作、放送 1980年：アルプスの少女ハイジの聖地であるスイスに日本人が殺到 |
| 1990年～2000年代 「何度も訪れる形態の登場」 1991年：賑わいに気づいた地域で地域活性化に活用が始まる |
| 2010年以降 「製作会社と協力した地域活性化」 2010年：聖地巡礼を活用した地域活性化を行う事例が増えた。 |

②聖地巡礼

聖地巡礼による地域活性化への取り入れ方法を表2のように分類した。

表2 地域活性化へ取り入れ方法による分類

| | |
|--------|--|
| アニメ先行型 | 地域活性化を意図せず聖地になる。 アニメが放送され、はじめて地域住民等が地元が聖地であることを知り、地域活性化に取り入れようとするもの |
| 企画先行型 | 聖地を生むことを目的に作られる。 地域活性化の一つの目的としてアニメの製作段階から取り込まれるもの |

アニメ先行型は、意図せずアニメが放映されているため、企画段階の手間は少ないが、グッズやイベントを行う際に、版權などの問題が発生する可能性がある。地域活性化を目的に作られる企画先行型は、アニメ放送前から企画することで、イベントの準備や告知を早く行えるが、企画段階の綿密な打ち合わせが必要となる。さらに、複数の先行研究を横断的に分析すると、聖地巡礼には巡礼しようという決め手の視点として、以下の4つが重要であることがわかった。①ストーリー②再現性③イベントの実施④限定グッズ 本研究ではこのうち、ストーリー以外の3点について分析する。

③コンテンツツーリズムと聖地巡礼

コンテンツツーリズムとは、地域に「コンテンツを通じて醸成された地域固有のイメージ」としての「物語性」「テーマ性」を付加し、その物語性を観光資源として活用することである。映画やマンガ、アニメ等を観光の動機としており、聖地巡礼はコンテンツツーリズムの1種である。聖地巡礼は、既存の観光資源に左右されず、既存の観光概念にとらわれない新たな観光資源であると言える。

4. 事例1：滋賀県犬上群豊郷町の「けいおん」

豊郷町は滋賀県の中部に位置する人口7400人の町。近江商人出身地の1つで、「丸紅」や「伊藤忠商事」の創設者である伊藤忠兵衛などを輩出している。

「けいおん」による地域活性化は役場職員が、旧校舎が聖地になっていることを知り、聖地巡礼の地域活性化について調べることから始まる。先行事例を綿密に調査し、「けいおんでまちおこし実行委員会」を結成した。

ヒアリング調査により明らかになった、「けいおん」の聖地巡礼の決め手は下記の通りである。

再現性：

- ・忠実に現地が再現されていた。
- ・地域住民がアニメと同じように小物を配置

イベントの実施：

- ・年1回軽音楽甲子園の実施
- ・キャラの誕生日会（ファン主催）

限定グッズ：

- ・地域の商店主がつくった「けいおん」のグッズ販売一方で、「けいおん」独自の取り組みとして、新たに2つの視点で成功の鍵を握ることが明らかとなった。

視点1：ファンの要望の取り入れ

ファンの主人公たちと同じようにお茶をしたいと思いますから、校内にカフェを設けた。また滋賀県が飛び出し看板発祥の地であり、ファンの意見から、「けいおん」の飛び出し看板を作って設置したいという意見から、「けいおん」の飛び出し看板の設置を行った。「けいおん」の放送により、軽音楽ブームが起き、全国に軽音楽部が増加するとファンから軽音楽の甲子園を行ってはどうかという意見があり、「とよさと軽音楽甲子園」を実施した。当時、軽音楽の大会があまり多くなかったことから、世間から注目され、現在も続く人気イベントとなった。

視点2：ファンを受け入れる姿勢・集える場所を設けた

旧豊郷小学校は重要文化財にも指定される貴重な建築物だが、それを無料で入場できるようにしていた。このことにより、ファンがより気軽に何度でも来ることができる仕組みになっていた。その他にも

- ・教室を午前、午後とも2,000円で借りられるようにしている
- ・寄贈されたグッズを展示・自由に見る&撮影できる
- ・コスプレ自由
- ・町内の店舗にポスター設置

など、ヒアリング調査から、地域の商店街や行政による様々なファンの受け入れ態勢が聖地巡礼のリピーターが多いことに繋がっていることが明らかとなった。

5. 事例2：京都府京都市伏見区の「いなこん」

伏見区は、京都市の南東に位置する人口約28万人の区。区内には桂川、宇治川などといった主要な河川が流れ、それを活かした酒蔵業が盛んである。

「いなこん」は京都市が発案し、地元の商店主らに協力依頼した。関連イベント開催時には、伏見稲荷大社にも協力依頼し、イベントや地域の特産品コラボグッズの販売などを行いながら取り組みを進めた。ヒアリング調査により明らかになった、聖地巡礼の決め手は、下記の通りである。

再現性：

丁寧なロケハンにより、現実の風景をアニメに近づけた

イベントの実施：

- ・スタンプラリー
- ・地域イベントにてアニメ関連のイベントを実施

限定グッズ：

- ・限定缶バッジ（スタンプラリーの景品）
 - ・地域イベントでの特産品コラボグッズ
- また、いなこん独自の工夫の視点として、下記についてあげられた。

視点1：ファンの受け入れ体制

ファンが地元で円滑に巡礼できるような配慮として、音声付きガイドアプリの配信、聖地巡礼マップの配布を行っていた。

6. 分析

以上の結果から、聖地巡礼の決め手は①ストーリー②再現性③イベントの実施④限定グッズの他に、⑤ファンの要望の取り入れ⑥ファンの受け入れ態勢⑦ファンの聖地での集える場所の7つの視点があることが明らかとなった。（表3）

表3 聖地巡礼の7つの視点

| | けいおん | いなこん |
|---------------|--------|-------|
| 制作 | アニメ先行型 | 企画先行型 |
| 再現性 | ● | ● |
| イベント | ● | ● |
| 限定グッズ | ● | ● |
| ファンの要望の取り入れ | ● | × |
| ファンの受け入れ体制 | ● | ○ |
| ファンの現地での集える場所 | ● | × |

●該当する ○一部該当する ×該当しない

先進事例である豊郷町は、ファンに積極的に意見を聞き、取り入れていった。取り組みを進めていく中で、地域はファンの受け入れ体制を整え、来たファンは、活動を手伝ったりと、協力関係が出来上がっていった。アニメは一定期間が過ぎると放送が終了することが多い。豊郷町の事例を調査するなかで、放送終了後はファンと地元の力によって聖地としての魅力が育てられていることが見てきた。戦略的に作られた企画先行型であっても、聖地巡礼の効果を最大限に生かすためには、ファンの受け入れ態勢が大きく関わるといえる。

7. まとめ

本研究では、聖地巡礼の決め手に7つの視点で重要であることが明らかとなった。聖地巡礼は既存の観光概念にとらわれない新たな観光資源であるため、聖地巡礼の行動に対しては、地域の特徴は加味されないが、受け入れ側の地域はその実情や市町村規模によって行動が左右される。今後は受け入れ側の意識についても調査し、アニメの聖地巡礼を地域活性化へ活かす方法を検討したい。



大学附属高校における 制服に関する研究

磯崎 典子 / 束花 颯斗 / 吉川 和輝

Noriko Isozaki / Hayato Sotsuka / Kazuki Yoshikawa

李ゼミ

1. はじめに

制服は「組織集団を代表する正式な服装」とし学校教育と共に受け入れられ、今に至る。設ける利点として同じ制服の着用による組織としての連帯感、自尊心や忠誠心が高まるといった効果への期待などがある。また、制服はその集団のシンボルであるため、組織の印象が付加される要素の一つでもある。

本研究では大学附属高校に着目し、高校生・大学生・その他一般人を対象に①学校名を記載しない②学校名を記載した場合、印象の差についてまた附属大学の名称が制服の印象に影響を及ぼすかを比較し、さらに附属大学の名称が制服の印象に及ぼす影響、制服のそれぞれのアイテムが与える印象を模索する。

2. 試料作製

附属高校を設けている関西の大学20カ所から男女20校ずつ抽出した。



図1 男子制服画像



図2 女子制服画像

3. 試料の測定

①測定機器:色彩輝度計

KONICA MINOLTA CS-150

②測定方法:実験に使用した画像を表示した携帯端末の画像20枚において、カテゴリごとにそれぞれ3箇所を測定し、その平均を求めた。

4. 被験者実験

【調査期間】

2017年11月29日～2018年1月24日

【調査対象者】

高校生30名(男16名、女14名)

大学生30名(男15名、女15名)

その他30名(男13名、女17名)

【調査方法】

制服に関する20形容詞対語を用い、5段階評定によるSD法を用いた感性実験を行った。実験内容は20種類の大学附属高校の制服画像において学校名を記載したものと記載していないものの2通り計40枚を携帯端末のアプリケーション(LINE)のアルバム機能で各自共有し、評価をしてもらった。

表1 SD法に用いたイメージ用語

| | |
|---------------|----------------|
| 好きー嫌い | 清潔なー不潔な |
| 明るいー暗い | 真面目なー不真面目な |
| 派手なー地味な | 洗練されたー野暮ったい |
| 上品なー下品な | 落ち着くー落ち着かない |
| 男性的なー女性的な | 暖かいー冷たい |
| 伝統的なー伝統的でない | 魅力的なー魅力的でない |
| 活発なー活発でない | 知的に見えるー知的に見えない |
| 個性的なー平凡な | 現代的なー古風な |
| 親しみやすいー親しみにくい | 高級なーオーソドックスな |
| 綺麗なー醜い | 大人っぽいー若々しい |

5. 結果と考察

5-1. 回答比較結果イメージプロフィール

【男子】[男性的][平凡な][古風な]の項目の値が大きいものに着目すると、上衣が学ランである天理高校、帝塚山高校、奈良学園高校の3校であることがわかった。

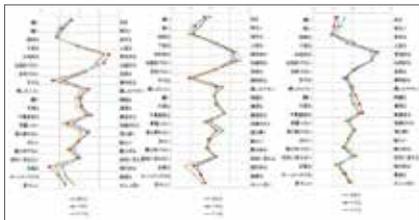
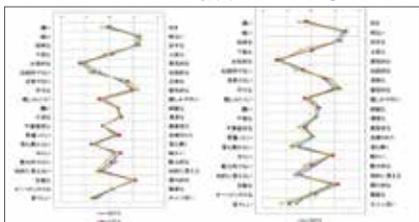


図3 イメージプロフィール

【女子】京都橘高校と華頂女子高校においては高校生・大学生・その他の回答のどの項目においても評価が酷似していた。

また、より女性的な評価のものを検討すると、女子制服のセーラー服であること、赤やリボンは女性をイメージしやすいことが影響していると考えられる。



京都橘高校 華頂女子高校

図4 イメージプロフィール

6. 因子分析

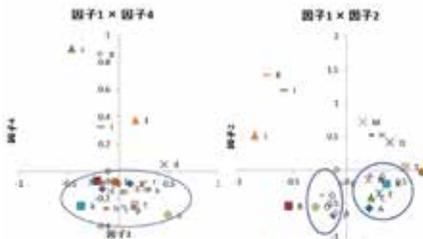
男女各20校ずつの試料から引き起こされる感情の心理因子を抽出するため、20個の形容詞に対する被験者の結果を主成分法による因子分析(バリマックス回転)を行った。

表2 感情尺度の因子分析結果【男子・全体・その他】

| 項目-その他 | 第1因子 | 第2因子 | 第3因子 | 第4因子 |
|----------------|--------|---------|---------|---------|
| 感情尺度 | | | | |
| 繊細な-強い | 0.7900 | 0.1812 | 0.1421 | -0.0701 |
| 上品な-下品な | 0.7248 | 0.0906 | 0.0980 | 0.0999 |
| 清潔な-不潔な | 0.7208 | 0.1245 | 0.0936 | 0.0483 |
| 知的に見える-知的に見えない | 0.7438 | 0.0472 | -0.0749 | 0.1581 |
| 魅力的な-魅力的でない | 0.7168 | 0.2490 | 0.2851 | -0.0900 |
| 真面目な-不真面目な | 0.6710 | -0.0955 | -0.1141 | 0.2848 |
| 好き-嫌い | 0.6642 | 0.1799 | 0.2772 | 0.0448 |
| 清潔だった-清潔じゃない | 0.6970 | 0.3482 | 0.1252 | -0.0941 |
| 落ち着く-落ち着かない | 0.6469 | -0.2061 | 0.3793 | 0.0904 |
| 清潔な-地味な | 0.6102 | 0.7265 | 0.2873 | -0.2513 |
| 男性的な-女性的な | 0.6034 | 0.1728 | -0.0312 | -0.1013 |
| 暖かい-寒い | 0.1248 | 0.9989 | 0.2181 | -0.2428 |
| 高級な-オーソドックスな | 0.4911 | 0.4912 | -0.2342 | -0.1773 |
| 暖かみやすい-暖かみにくい | 0.5152 | -0.0950 | 0.3668 | 0.0771 |
| 清潔な-清潔でない | 0.0688 | 0.3927 | 0.5116 | 0.1131 |
| 暖かい-冷たい | 0.1148 | 0.1421 | 0.4820 | -0.0500 |
| 大人っぽい-可愛い | 0.2974 | 0.0013 | -0.9771 | 0.0798 |
| 伝統的な-伝統的でない | 0.1363 | -0.1899 | 0.0994 | 0.8113 |
| 男性的な-女性的な | 0.1365 | -0.1114 | -0.0951 | 0.2613 |
| 現代的な-古典的 | 0.2128 | 0.4218 | 0.0915 | -0.4018 |
| 固有値 | 5.2939 | 2.4157 | 1.9439 | 1.3398 |
| 寄与率 | 26.42% | 12.08% | 9.72% | 6.70% |
| 累積寄与率 | 26.42% | 38.50% | 48.22% | 54.92% |

表3 感情尺度の因子分析結果【女子・全体・その他】

| 項目-その他 | 第1因子 | 第2因子 | 第3因子 |
|----------------|---------|---------|---------|
| 感情尺度 | | | |
| 上品な-下品な | 0.7995 | -0.1655 | 0.0989 |
| 繊細な-強い | 0.7394 | 0.1372 | 0.1777 |
| 清潔な-不潔な | 0.7269 | -0.0742 | 0.1211 |
| 落ち着く-落ち着かない | 0.7266 | -0.1346 | -0.1311 |
| 知的に見える-知的に見えない | 0.7221 | -0.3271 | 0.1009 |
| 好き-嫌い | 0.6997 | 0.3854 | 0.1877 |
| 魅力的な-魅力的でない | 0.6902 | 0.3770 | 0.2049 |
| 暖かみやすい-暖かみにくい | 0.6720 | 0.2266 | -0.0963 |
| 真面目な-不真面目な | 0.6616 | -0.4249 | -0.0711 |
| 清潔だった-清潔じゃない | 0.6526 | 0.2327 | 0.4621 |
| 清潔な-地味な | -0.0161 | 0.7800 | 0.4003 |
| 暖かい-寒い | 0.1192 | 0.7688 | 0.3141 |
| 高級な-オーソドックスな | 0.0442 | -0.6827 | 0.4210 |
| 大人っぽい-可愛い | 0.1899 | -0.2988 | 0.1188 |
| 暖かみやすい | 0.3021 | 0.6392 | 0.0986 |
| 伝統的な-伝統的でない | 0.2552 | -0.4155 | -0.3409 |
| 男性的な-女性的な | -0.3811 | -0.5370 | -0.0888 |
| 高級な-オーソドックスな | 0.3055 | 0.0071 | 0.7077 |
| 現代的な-古典的 | 0.0950 | 0.5528 | 0.0777 |
| 男性的な-平反的 | -0.0320 | 0.4112 | 0.4798 |
| 固有値 | 5.4311 | 3.8226 | 1.9444 |
| 寄与率 | 27.15% | 19.13% | 9.72% |
| 累積寄与率 | 27.15% | 46.28% | 56.00% |



因子1×因子4【男子】

因子1×因子2【女子】

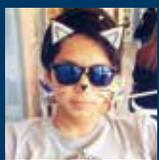
図5 因子得点分布図

7. 結論

男子・女子共に、各試料に対する印象に関して、高校生、大学生、その他において大きな差は見られなかった。学校名を記載した試料と学校名を記載していない試料の比較をしたイメージプロフィールにおいて附属大学名によって制服に対するイメージが左右される傾向は見られなかった。

男子においては上衣が茶色・灰色のものは個性的な評価値が高かった。また、制服が学ランである高校の制服は他校の制服と比べ、男性的、平凡な、古風の値が大きかった。アイテムのなかで、印象を左右するものは、ネクタイであった。

また、女子において、女性的と評価をされていた制服はセーラー服、もしくは、ブレザーで赤のリボンがついているという特徴が見られた。アイテムの中で、印象を左右するものは、リボンの有無となった。



桂 建己

Tatsuki Katsura

季ゼミ

1. はじめに

一般に、証明写真を撮影する際、服装や髪型等工夫が行われているものの、自分の肌の色を把握し、背景色から受ける影響などを考慮した研究は見当たらない。また、最近の就職活動において紙媒体の履歴書だけではなく、Web履歴書も普及しつつある。そこで本研究では、男子大学生の就職活動時に用いる証明写真の中で肌の色と背景色から受ける影響を中心に、就職活動を行う学生側の認識と、受け入れ先のような第三者からの観点から、学生が伝えたい印象と受け入れ先へ良い印象を与えられる証明写真について検討と提案を行う。

2. 試料の作製

本研究で比較する背景色は予備調査の回答をもとにして、回答の多かったグラデーションブルー(BW)・ブルー(B)・ホワイト(W)・グラデーションオレンジ(OW)・グラデーションディープブルー(DBW)の5色を作製した。(図1)

肌色は図2のように明度彩度均等に9段階に調整し、測定機器で測定し得た散布図から等間隔に離れた5つの点を抽出しモデル11名(No.1～No.11)分作製した。(図3)



図1 背景色5色の決定

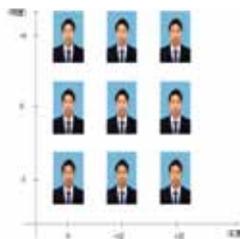


図2 肌色の調整(No.5)

証明写真における肌色と背景色に関する研究 —男子大学生の就職活動時の用いる証明写真—



図3 試料作製(No.5)

3. 試料の測定

- ①測定機器KONICA MINOLTA 色彩輝度計CS-150
- ②測定方法：モデル11名のそれぞれ左頬・右頬二箇所を測定し、平均を採用した。

表1 試料の諸元(No.5)

| 測定箇所 | Lv | x | y |
|------|--------|-------|-------|
| 左下 | 242.85 | 0.355 | 0.354 |
| 左 | 230.15 | 0.358 | 0.356 |
| 左上 | 200.25 | 0.362 | 0.356 |
| 真ん中下 | 196.4 | 0.359 | 0.358 |
| 真ん中 | 204.5 | 0.366 | 0.359 |
| 真ん中上 | 218.95 | 0.373 | 0.364 |
| 右下 | 220.4 | 0.355 | 0.355 |
| 右 | 221.55 | 0.371 | 0.361 |
| 右上 | 217.9 | 0.365 | 0.358 |

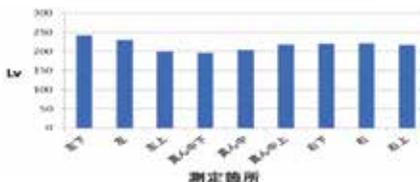


図4 試料の輝度値(No.5)

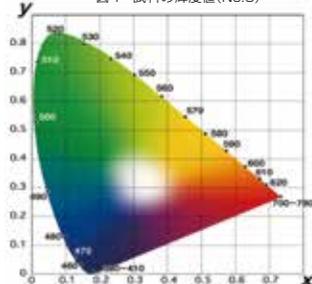


図5 xy色度図における試料分布(No.5)

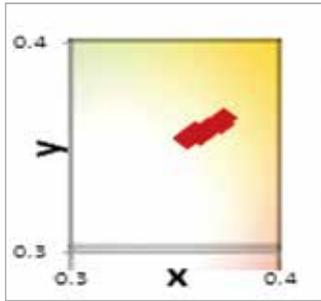


図6 xy色度表拡大図 (No.5)

4. 回答結果イメージプロフィール

全体における各背景色の平均値を図式化したものを図6に示した。一般的に証明写真で用いられているB、BW、Wに加え、DBWは全体的に似た評価となっている。冷たい印象を与えるがその反面、真面目そうで清潔な印象を与えることができるといえる。ほぼ全ての背景色に対し有意差が表認められるので、OWIは良い印象を与えることができるといえる。

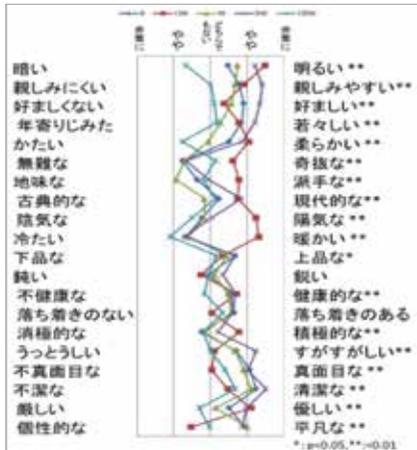


図7 全体のイメージプロフィール
* $p=0.05$, ** $p<0.01$

5. 因子分析

5つの背景色 (B・BW・W・DBW・OW) から引き起こされる感情の心理因子を抽出するため、20個の形容詞に対する被験者の評価値を、SPSSを用い、主因子法による因子分析 (バリマックス回転) を行った。

表2 感情尺度の因子分析結果 (全体)

| 感情尺度 | 因子1 | 因子2 | 因子3 |
|-----------------|---------|---------|--------|
| 不真面目な・真面目な | 0.8998 | 0.1719 | 0.1863 |
| 不潔な・清潔な | 0.8163 | 0.1728 | 0.2831 |
| うっとしい・すがすがしい | 0.7925 | 0.2309 | 0.2418 |
| 個性のない・平凡な | 0.7325 | -0.1438 | 0.2278 |
| 好ましくない・好ましい | 0.7325 | 0.1817 | 0.4742 |
| 下品な・上品な | 0.6943 | 0.3688 | 0.2351 |
| 落ち着きのない・落ち着きのある | 0.6863 | 0.0605 | 0.3494 |
| 鋭い・鈍い | 0.6859 | 0.4124 | 0.0181 |
| 頼みにくい・頼みやすい | 0.6481 | 0.1773 | 0.5960 |
| 不健康な・健康的な | 0.5481 | 0.4729 | 0.4019 |
| 年寄りみたく・若々しい | 0.5481 | 0.3807 | 0.4967 |
| 地味な・派手な | 0.2014 | 0.8298 | 0.2600 |
| 無難な・奇抜な | -0.0522 | 0.7381 | 0.0022 |
| つまらない・面白い | 0.2173 | 0.7331 | 0.5091 |
| 冷たい・暖かい | 0.6848 | -0.7074 | 0.5008 |
| 消極的な・積極的な | 0.3838 | 0.6524 | 0.2407 |
| 古典的な・現代的な | 0.2389 | 0.6486 | 0.3545 |
| 暗い・明るい | 0.3766 | 0.3072 | 0.7395 |
| かたい・柔らかい | 0.3284 | 0.3404 | 0.7843 |
| 暗い・明るい | 0.2931 | 0.2798 | 0.6398 |
| 実用度 | 31.97% | 21.38% | 34.75% |
| 変異度 | 31.97% | 33.35% | 70.73% |

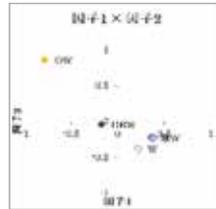


図8 第1因子-第2因子空間上の因子得点分布図 (全体)

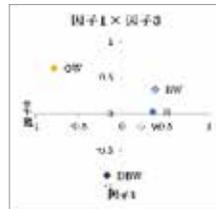


図9 第1因子-第3因子空間上の因子得点分布図 (全体)

6. 結論

1) 全体の背景色のイメージプロフィール・因子分析結果からはOWIは他の背景色との有意差が認められた。すなわち、明るい・陽気な・暖かいという感情で、印象を与えることができる。

2) 背景色の印象調査では、モデル11名、学生・一般人とともにBWが最も選ばれる結果となった。肌色による背景色の印象では、モデル11名に対し、学生・一般人とともに、明度・彩度をプラスしたものが多く選ばれた。また、証明写真の背景色ではBWが一番多く選ばれ、次いでB・Wが選ばれた。

以上の結果から、背景色ではBWを選び、肌色は明るくすれば、最も良い印象を与えることが出来、自分をよりアピールできると考えられる。



木村 有弥

Aya Kimura

東ゼミ

布地色が柔軟剤の香りの印象に与える影響

1. 研究背景と目的

近年、環境が整備され、昔のように下水臭や工場の排気ガスなどの「悪臭」はほとんどしなくなった。その一方、たばこのにおいや夏場の満員電車での汗臭さなどのわずかな臭いが問題視される社会となってきた。この対策のひとつとして行われるのが、「香りの付加」である。そこで本研究では、香りを付加価値とする代表的な製品といえる「柔軟剤」を対象とし、その香りの評価に与える色彩の影響について調査する。

2. 研究概要

[被験者] 畿央大学男子学生10名、女子学生10名の計20名

[対象とした柔軟剤]

市販の柔軟剤より香りの種類が重複しないように、「グリーン」「ソープ」「シトラス」「ローズ」の4種類を選定した。

[使用した布地]

布地はホワイト、ピンク、ブルー、グリーン、イエローの5色とした(図1)。

[実験方法]

4種類の柔軟剤を5色の布地に付着させた試料を被験者1人あたり20パターン用意し、ランダムにSD法(7段階)で評価してもらったのち、被験者の基本属性や色の印象に関するアンケートを実施した(図2)。



図1 使用した布地

[実験日程]

2017年8月25日、9月5日、9月11日

[実験場所]

畿央大学 R棟2階多目的室



図2 使用した調査用紙

3. においの意識と色のイメージ

においに対して敏感であると答えた被験者は全体の6割であった(図3)。他人の香りが気になると答えた被験者は85%と多く、受動喫煙の有無による差は僅かであった(図4)。

においに対して敏感であるか

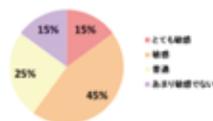


図3 においに敏感か

他人のにおいが気になるか



図4 他人のにおいへ意識

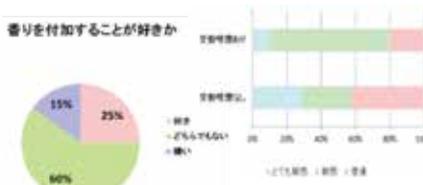


図5 香り付加への意識

香りを付加することが好きかどうかでは、どちらでもないが6割で受動喫煙による差も僅かであった。香りの種類や使用状況により異なるのではないかと推察された(図5)。

実験に使用した布地をみて、その色から連想するイメージを自由記入で回答してもらった結果、ブルーはさわやか、冷たい、グリーンは自然、ピンクは花、女性的、イエローは柑橘系、ホワイは清潔などの回答が多かった(図6)。



図6 布地色から連想するイメージ

4. においの心理評価実験

A (グリーン)、B (ソープ)、C (シトラス)D (ローズ)の香り別、被験者全員のSD法評価の平均値を図7に示す。4種類の香り共通して、「男性的な-女性的な」に有意差(p<0.01)がみられ、布地がピンクの場合に女性的、ブルーの場合に男性的と評価された。その他の項目では香りの種類によって有意差が認められる形容詞対は異なっていた。

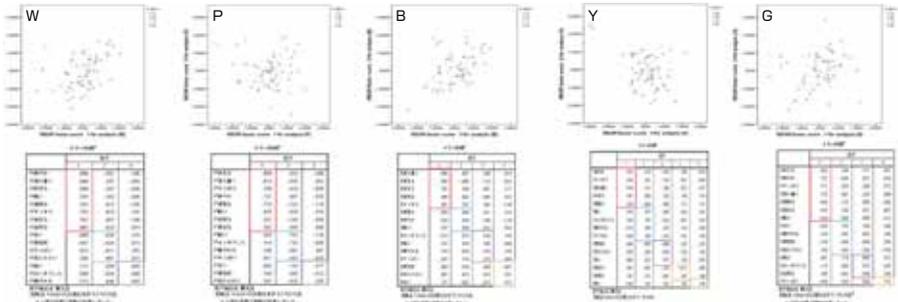


図8 布地色別の因子分析結果 (W:ホワイ、P:ピンク、B:ブルー、Y:イエロー、G:グリーン)

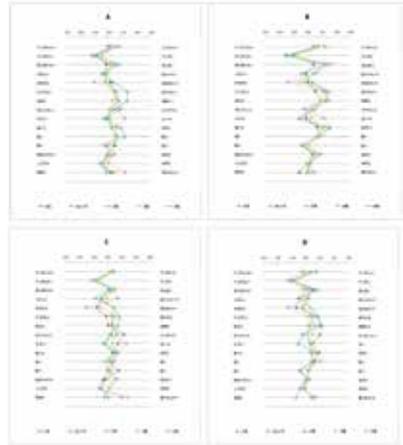


図7 香り別平均値プロフィール

また、香り評価における性差については、ホワイ、ブルー、グリーンには男女間の差はほぼみられなかったが、ピンク色試料では主にシトラスの香りで、イエロー試料ではグリーンの香りで一部の項目に有意差がみられた。

さらに布地色別に因子分析を行った結果、ホワイ、ピンクは3因子、ブルー、グリーンは4因子、イエローは5因子が抽出され、適合度検定の結果、ホワイ、ピンク、ブルーが有意であった。第1因子と第2因子を軸にした散布図において、4種の香りの分布は異なっていた(図8)。

5. まとめ

本研究は、香りに色の影響があると結論付けた。今後、全く違う色であっても香りの評価に影響があるのか、異なる柔軟剤の香りにおいても色の影響があるのか、年齢差などを検討していくことが望ましい。

【参考文献】

若田忠之、齋藤美穂:香りの分類における心理学的検討—SD法を用いた印象による香りの分類—日本感性工学学会論誌、Vol.13、No.5、pp.591-601(2014)



楠田 さおり

Saori Kusuda

清水ゼミ

まちづくりワークショップ導入初期期において 市民の参加意欲向上に関する研究 ～大和高田市のまちづくりワークショップを事例として～

1. 研究背景・目的

近年、まちづくりにおいて、市民の多様な意見を吸い上げ、市民参画を深める方法としてまちづくりワークショップ（以下WS）が盛んに行われている。しかし参加者の募集に焦点を当てている既往研究は数少ない。大和高田市では平成28年度に初めてWSが開催され、本年度で2年目を迎えた。本研究ではこの「大和高田市シビックコア周辺地区まちづくりワークショップ」を通して以下の2点についての知見を得ることを目的とする。①「まちづくりに対する潜在的な意欲のある市民」^{注1)}へのWSの効果的な周知方法について②WSIにおける学生の有効的な介入方法について。

2. 調査方法

調査1) 市民のまちづくりに対する意識調査

①WS開催の認知度②潜在的なWS参加意識の有無の2点を調査するため、表1の通りアンケート調査を実施した。

表1 市民のまちづくりに対する意識調査概要

| | |
|-------|-----------------------|
| 調査方法 | 直接配布・直接回収 |
| 調査対象者 | 29年度WSの開催周知で声かけを行った市民 |
| 調査期間 | 平成29年9月20日～10月1日 |
| 有効回答数 | 83票 |

調査2) WS参加者のアンケート調査

表2の通りアンケート調査を実施した。

表2 各年度WS参加者アンケート調査概要

| | 28年度WS参加者 | 29年度WS参加者 |
|-------|----------------|--------------|
| 調査方法 | 各任民宅へ郵送配布・郵送回収 | 直接配布・直接回収 |
| 調査対象者 | 参加申込があった12名 | 第1回の市民参加者17名 |
| 調査日 | 平成29年3月 | 平成29年10月28日 |
| 有効回答数 | 8票 | 17票 |

3. 各年度のWS参加者概要と周知方法

各年度の参加者人数は表3.4の通りである。28年度は学生がWS参加者として多数参加したが、29年度は学生がWSの周知活動を行うことに関与し、WSへの参加は市内在住1名と市外在住1名の計2名にとどまった。

表3 平成28年度の参加者人数

| | | | |
|-----|----------------|-----|--------------------------|
| 第1回 | 平成28年11月26日(土) | 35名 | 市内在住者14名(学生2名含む)・市外学生21名 |
| 第2回 | 平成29年1月28日(土) | 24名 | 市内在住者9名(学生2名含む)・市外学生15名 |
| 第3回 | 平成29年2月25日(土) | 36名 | 市内在住者15名(学生2名含む)・市外学生24名 |

表4 平成29年度の参加者人数

| | | | |
|-----|----------------|-----|-------------------------|
| 第1回 | 平成29年10月26日(土) | 19名 | 市内在住者18名(学生1名含む)・市外学生1名 |
| 第2回 | 平成29年11月25日(土) | 13名 | 市内在住者12名(学生1名含む)・市外学生1名 |
| 第3回 | 平成30年1月20日(土) | 16名 | 市内在住者15名(学生1名含む)・市外学生1名 |

各年度行った周知方法は表5.6の通りである。29年度は、市が行ったものに加え、WSの内容を理解しやすい言葉や、親しみやすいイラストを用いてチラシを自ら作成し、WSへの参加を呼びかける「声かけ」を表7の通り実施した。

表5 平成28年度WS開催周知

| | | |
|---------|---|-------------------------|
| 募集案内を掲載 | 平成28年10月から1カ月間 平成28年10月21日 平成28年11月上旬 | 市HP 毎日新聞の地域版 中和新聞 |
| 参加依頼 | 平成28年11月頃 | 婦人会や自治会等 畿央大学の学生 |

表6 平成29年度WS開催周知

| | | |
|---------|--------------------------|---------------------|
| 募集案内を掲載 | 平成29年9月から1カ月間 平成29年9月 | 市HP 広報誌9月号 |
| 参加依頼 | 平成29年9月 平成29年10月 | 28年度の参加者 畿央大学の学生 |

表7 「声かけ」実施記録

| イベント名 | 配布部数 | イベント名 | 配布部数 |
|--------------|------|---------------|------|
| シニアリーダー研修 | 33 | 片楯中学校校歌委員部演奏会 | 300 |
| 社交ダンスの体験レッスン | 6 | のびづくランド | 17 |
| 鉛筆体験レッスン | 13 | 子育てサロン | 8 |
| やまとたか第第九合唱団 | 20 | まちのことについて語ろう | 25 |

4. 市民のまちづくりに対する意識調査

調査1から、WSの開催を知っていたのは回答者の10%であり、そのうち広報誌で知った人が75%であることが明らかとなった。(図1.2)

また、まちづくりやWSへの参加の意志を問う質問では、図3.4のように参加に前向きな回答が約7割を占めていることなどから、WSの参加に対して潜在的な意欲のある市民が少なくないことがわかった。さらに、今回の結果からは断定できないものの、日程調節や乳幼児のいる方へのフォローといった運営側の工夫や参加経験のない人へのフォローによって参加を促すことができると考えられる。

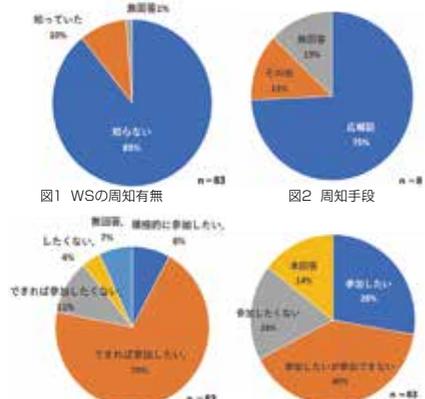


図3 まちづくりに参加したいか 図4 29年度のWSに参加したいか

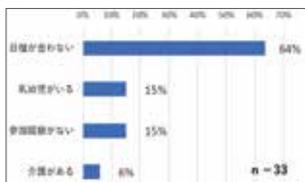


図5 参加したいが出来ない理由



図6 参加したくない理由

5. WS参加者のアンケート調査

調査2からは、WS開催を認知した手段として一見手軽そうなHPよりも知人や広報誌による認知が高いことがわかった。また29年度では「チラシをみて」、「アンケートに答えて」といった「声かけ」について一定の効果がみられた。(図7.8) さらに、学生の参加が多かった28年度には、「実際に住む市民同士で議論したかった」との声が聞かれたが、29年度には見られず、今後もまちづくりWSや行政との意見交換に参加したいといった積極的な回答が生まれていた。

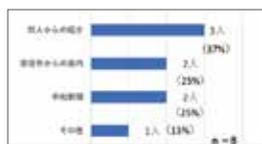


図7 28年度参加者の認知方法



図8 29年度参加者の認知方法

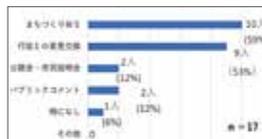


図9 29年度参加者今後参加したいまちづくり活動

6. 平成29年度開催のWS参加者のAさん

30代のAさんは広報誌をみて、WSに興味を持っていたが、一般の市民が参加するものではないのかと参加をためらっていたところに子育てサロンで「声かけ」に出会った。スーツや作業着などの固い雰囲気の人ではなく、年齢の近い学生からの声かけは受け入れやすく参加を決意出来たと話してくれた。今後はSNSなどを通して同世代に活動周知をしていきたいとの事である。

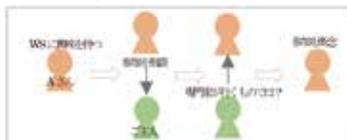


図10 自宅で広報紙を見たAさん



図11 子育てサロンでのAさん

7. まとめ

一般的に広報誌での周知率は高いとされているが情報量は限られている。Aさんの様に興味はあるがよくわからないと感じている市民に対して、直接会って呼びかけを行うといった「声かけ」による周知は有効であると考えられる。WSを理解した学生が「声かけ」をするからこそ市民に受け入れられ、参加経験のない希望者にフォローが出来たと考えられる。また、地元を知っている市民同士で議論したいといった声が挙げられることから、WSの有効な学生の介入方法は、参加者としてではなく「声かけ」のように参加者を集めるといった介入方法が有効だと分かった。

注1) 自発的に何か行動は出来ないが、機会があれば取り組んでみたいと思う市民を指す。



齋藤 圭佑
Keisuke Saito

清水ゼミ

地域型ロックフェスにおける地域活性化のあり方に関する研究 —京都大作戦を事例として—

1. 背景と目的

我が国は地方創生に力を入れており、様々な地域活性化策が模索されている。その1つにロックフェスティバル(以下ロックフェス)が挙げられる。ロックフェスには多くの人が集まり、話題が生まれ、広まりやすい場といわれている。そのような場を最大限利用し、地域の活性化を目指すという動きが、近年強まっている。しかしながら、特に普段音楽会場に利用しないような地域型のロックフェスでは、地域の理解なしでは実施が難しい。

本研究では、ロックフェスのうち、音楽会場外の野外に特設ステージを組んで行われるものを「地域型ロックフェス」とする。「地域型ロックフェス」の先行事例として日本の三大フェスである、フジロックフェスティバル(以下、フジロック)ライジングサンロックフェスティバル(以下、ライジングサン)ロックインジャパンフェスティバル(以下、ロックインジャパン)を文献調査した。さらに、「地域型ロックフェス」で、今年で10周年を迎える京都大作戦をヒアリング調査した。

以上の調査により、下記の3点について明らかにする。

- 1.日本の三大ロックフェスの地域との関係性を構築するための取り組み
- 2.京都大作戦の地域との関係性
- 3.地域型ロックフェスのあり方

2. 調査方法

調査方法については、下記の通りである。

- 1)文献調査で日本三大フェスの実態を把握
- 2)京都大作戦のヒアリング調査を実施

表1 京都大作戦ヒアリング概要

| 調査対象 | 京都公園公社 | FM京都 | 宇治市 |
|--------|--|--------------------|------------|
| 調査場所 | 山城総合運動公園体育館 | FM京都COCON島丸B1 | 宇治市役所 |
| 調査方法 | 質問項目を作り京都大作戦の関係者の方に直接会いヒアリング | | |
| 調査日 | 12月23日 | 11月14日 | 11月7日 |
| 主な質問項目 | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの内容や処理の仕方 ・10年前からどのような経緯で開かれているか ・地域との関係性 ・ごみ対策 ・課題点、問題点 | | |
| | 会場である公園の使用許可 | 京都大作戦を開催するにあたっての経緯 | 宇治市の詳細について |

3. 先行事例について

地域型の三大フェスと地域との関係性は以下についてあきらかとなった。(表2)

- ・いずれも、交通アクセスの悪いエリアで実施されている。
- ・入場者数は開催当初から、概ね右肩上がりが増加している。
- ・総入場者数と人口を比較すると、いずれの地域においても、人口よりも多い。
- ・宿泊施設不足がいずれの地域でもみられた。ライジングサンではテント泊ができる場所の無償提供している。

表2 日本三大フェスの地域と関係性

| | フジロック | ライジングサン | ロックインジャパン |
|---------|--|---|--|
| 開催地 | 東京都多摩区稲佐(現在は、観覧客が定数を超えるアット会場であるため、毎年会場が異なる。特に固定しない。しかし、フジロックが開催される際、サント会場する人も多い。 | 栃木県に行われるフェスであるため、宿泊施設ではなく、車とバイクの入る会場でテントを張っている。 | むれもなかには(宿泊施設が少なく、フェスの開催が行われて、宿泊施設が埋まってしまうため、主催者が会場に「キャンピングエリア」というキャンプ場をつくり、貸出している。 |
| 地域との関係性 | <ul style="list-style-type: none"> ・フジロックが好きな人々、増城出身の方々が集まった「フジロックフェス」という組織が結成していた。 ・「フジロックフェス」の存在はフェスの開催を促す「ロードワーク」がいう働きかけがあり、ごみ対策やボランティア活動を行っている。 ・主催であるNHKの協賛金が、開催1ヶ月前から、会場に向かい、地元の方々と連携するなど、毎年交流を深めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・会場に目標がないため、地域の方々と協力してオリジナルの目標となる場所を作った。 ・地元のお祭りを営んでいる方々が、フェスにあるブースで出店し、PR活動を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・開催する会場毎に起きた歴史や地域の影響を受け、地元への観光客が減少した。フェスを知らず、観覧客を取り戻すべく考え開始した。 ・「みなと祭」というフェスが地元には特に関心を持っており、開催されるための地元の方が特定の会場を確保することで、より地域になっっている。 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の野外フェスの起源 ・浜野町は東の国境に占める森林の割合が9割を超える森林の町 ・音楽アーティスト中心 ・世界最大のロックフェスティバルで94日に開催(2014年)「世界一長いロックフェス」 | <ul style="list-style-type: none"> ・国内最大級の野外オールナイト型のロックフェスであり、開催期間は11時半～朝まで ・期間を長年ながら音楽を続ける ・初年度のみロックインジャパンがアーティストの手配をした | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽雑誌のロックインジャパン社が企画制作 ・国内最大規模の2万人を動員 ・創業アーティストだけで構成 |

- ・主催者やスタッフが地域交流を重点に置いている。地元の人との交流や共に食事を交わす。地元の特産品をPRするためのブースの提供。

地域住民の人との関わりを大事にして開催していることが、必然的にフェスが継続できる要因となることが明らかとなった。

4. 京都大作戦について

京都大作戦は、毎年京都府宇治市の山にある「京都府立山城運動公園」で開催されるロックフェスである。音楽バンド10-FEETが主催者である。(図1 表3)

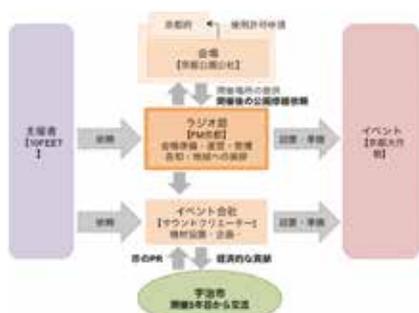


図1 現在の京都大作戦をとりまく関係性

表3 京都大作戦の概要

| 開催年月 | 京都大作戦 |
|-------|--------------------------------|
| 開催年月 | 2007年 7月 |
| 開催地 | 京都府宇治市の京都府立山城運動公園特設ステージ |
| 入場者数 | 5.5万人(2017年) |
| 主催者 | 10-FEET(歌手) |
| 企画制作 | サウンドクリエイターイベント企画会社 |
| チケット代 | 1日券4200円、2日券1万2000円、3日券1万7700円 |

山城運動公園を管理している京都公園公社と主催者である10-FEETを支えているFM京都と開催都市である宇治市役所に行ったヒアリングにより、下記について明らかとなった。

- ・開催当初は、宇治市は全く関与せず主催者やFM京都が中心となりフェスを開催していた。
- ・2013年からFM京都が宇治市にPRができるブースを手配。市が募集した、高校生のまちづくりサークルの足湯イベントを実施するなどを行っている。
- ・今後も、市主催の高校生のまちづくりサークルなどが積極的にかかわっていく予定である。
- ・サウンドクリエイターは音響のクレームの対応やイベントの音や機材など技術的な面をメインに関わっている。

- ・地域への対応はFM京都が窓口となり受け付けており、クレームの対処など問題の種別によって、サウンドクリエイター京都公園公社など専門チームに配分している。

- ・上記の対応により、数年前から目立ったクレームはない。

- ・現在も開催当初と同様にFM京都などの初期からの組織グループが中心となり、京都大作戦を支えている。

京都大作戦と地域との関係性は以下についてあきらかとなった。

- ・地域型三大フェスに比べるとアクセスは良い。
- ・入場者数は開催当初から、収容人数以上の応募があり、入場制限を行っている。
- ・宿泊施設不足
京都市内へ宿泊する人が多い。
- ・クレームに対する対応はしているが、地域型三大フェスに比べると交流は少ない。
- ・地域との関係性

地元と共にフェスを作りあげる取り組みを今後検討したいとしている。もともと観光地であることも起因していると考えられ、2017年より地域交流の一環に高校生とのコラボでフェスを盛り上げている。

地域住民の人との関わりは少ないが、地域へのクレーム対策は10年間の蓄積により確立されていた。

5. まとめ

(1) 地域型ロックフェスは、開催地域の理解と協力が不可欠であるが、日本の三大ロックフェスは地域との関係性を構築するために、地域住民や音楽ファンと共に地域の保全活動やモノづくりなど、共同作業を行った。これらのことが、継続的に毎年イベントを開催できる要因の一つであるといえる。

(2) 京都大作戦は、三大ロックフェスに見られたような、共同作業などはない。今後、地域との共同作業のイベント等を開催し、新たな京都大作戦を通じたコミュニティの創出が有効であるという可能性が考えられる。

(3) 今後、新たに地域型ロックフェスを開催するには、地域の人の理解を得ることが大事である。そのためにも、開催地域の特色を知ることが、必要不可欠と推察される。



佐野 真梨奈 / 有吉 舞香

Marina Sano / Maika Ariyoshi

李ゼミ

1. はじめに

本研究では、女子大学生の就職活動時に用いる証明写真の中で肌の色と背景色から受ける影響を中心に、就職活動を行う学生側の認識と、受け入れ先のような第三者からの観点から、学生が伝えたい印象と受け入れ先へ良い印象を与えられる証明写真について検討と提案を行う。

2. 予備調査

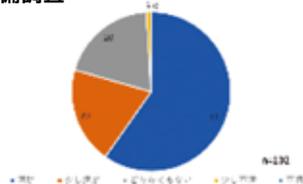


図1 背景色の満足度について

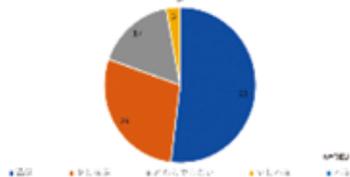


図2 肌の満足度について

証明写真の背景色では、撮影する側へ委託することがほとんどでありながら、約4割の人が十分に満足できていない結果となった。また肌の色は約半数の人が十分に満足できていない現状である。

3. 試料製作

予備調査の結果から、背景色を15色に決定し、就職活動中のモデル11名の証明写真の背景色を15色に施す加工を行った。



図3 背景色

図4 証明写真の背景色

証明写真における肌色と背景色に関する研究 —女子大学生の就職活動時に用いる証明写真を中心に—

4. 背景色の測定

①測定機器：KONICA MINOLTA 分光測色計 CM-700d

②測定方法：15色の背景色を写真館で印刷したものをを用いた。グラデーションにおいては、上部の最も色がついている部分、中間、下部の最も色が薄い部分3カ所を測定した。

5. モデルの肌測定

5-1. 証明写真による肌色測定

①測定機器：KONICA MINOLTA 分光測色計 CM-700d

②測定方法：モデルから提供してもらった証明写真の右頬、左頬の2箇所を測定し、数値を平均して散布図を作成した。a*b*色度図における試料分布と明度を表すL*を示した。

5-2. モデルの肌

①測定機器：KONICA MINOLTA 分光測色計 CM-700d、KONICA MINOLTA 色彩輝度計 CS-150

②測定方法：右頬、左頬、おでこ、手の甲（右）の4箇所を測定し、頬はその平均を求めた。

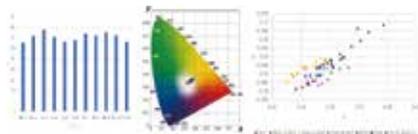


図5 肌の輝度値Yとxy色度図

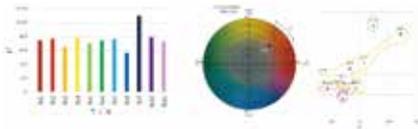


図6 肌のL*値と肌のa*b*色度図



島田 咲紀

Saki Shimada

東ゼミ

乾燥方法の異なる木材の香りと色の経時変化

1. 研究背景と目的

木材は人に心地よい感覚を与える素材と言われ、木材を建築資材として使用する場合は必ず乾燥材を用いる。本研究では、乾燥方法の異なる木材の香りに着目し、生理的反応、心理的反応および時間経過に伴う変化について明らかにすることを目的とし、大学生を対象とした実験を行う。

2. 研究方法

本研究の測定項目・測定時期を表1に示す。表面色の変化とにおい評価については、木材を内装材として用いることを想定し、教室の壁面に2017年7月から2018年1月まで設置(図1)して変化を測定した。設置時の環境条件として、温度、相対湿度、紫外線強度、照度を15分間隔で自動計測した(T&D, TR-74Ui)。生理学としては、においを嗅いだ時の脳血流中の酸素飽和度を測定した(島津製作所, FOIRE3000)。



図1 室内設置の様子

表1 測定内容・測定時期

| 測定内容 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|
| 表面色の変化 | | | | | | | | | | | |
| におい・紫外線強度測定 | | | | | | | | | | | |
| パネル測定試験 | ○ | | | ○ | | | | | | | |
| におい評価 | | | | | | | | | | | |
| 生体計測(脳血流) | ○ | | | | | | | | | | |

表2 試料とした木材の乾燥条件

| 乾燥方法 | 天日干し 8か月間 |
|------|---|
| 中温乾燥 | 70℃ 湿度 9時間 ↓ 乾燥70℃ 湿度70-50℃ 120時間 |
| | 98℃ 湿度 20時間 ↓ 乾燥120℃ 湿度98-90℃ 30時間 ↓ 乾燥120-108℃ 湿度90-84℃ 70時間 ↓ 乾燥108-100℃ 湿度84-75℃ 150時間 |
| 合板 | 中国製地下ラワン合板 |

3. 試料の概要

本研究では天然乾燥【天】、中温乾燥【中】、高温乾燥【高】を行ったスギ材(長良産)と、比較対象として中国製ラワン合板【合】の計4種類を使用した。木材の乾燥条件を表2に、4試料に差がみられた化学物質放出量を表3に示す。【天】に最も多く含まれるテルペン類は植物の精油成分であり、特有の香りやリラクセス効果がある。また、【合】に多く含まれるホルムアルデヒドとはシックハウスの原因物質の一つで、刺激臭があり揮発しやすい性質がある。7~9月は室温が30℃前後で推移しており、放散が促進されたと考えられる。設置前後の濃度をみると、時間経過に伴い、どの試料も濃度は減少した。

表3 化学物質放出量の変化

| 試料 | 化学物質 | 濃度(平均値(μg/m ³)) | | | | |
|----------|----------|-----------------------------|------|------|------|------|
| | | 天 | 中 | 高 | 合 | |
| テルペン類 | α-ピネン | 設置前 | 42.9 | 22.2 | 14.3 | <1.0 |
| | 設置後 | 69.3 | 50.1 | 11.5 | <1.0 | |
| ホルムアルデヒド | ホルムアルデヒド | 設置前 | 21.2 | 6.0 | <1.0 | <1.0 |
| | 設置後 | 18.4 | 28.4 | 21.8 | 84.3 | |

4. 表面色の変化

Lab表色系を用いて表面色の経時変化を測定した(コニカミノルタ, CR-13)。1試料につき計15点を測定し、平均した(図2)。明度は【高】が比較的低く、【中】がやや高い。どの木材も時間経過とともに明度は低下する傾向があり、色相では【天】と【高】のに変化に比べて【中】と【合】の変化が小さかった。

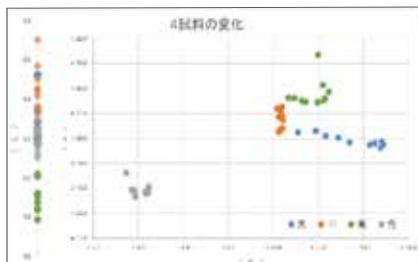


図2 材料表面色の経時変化

5. パネル選定試験

嗅覚が正常かどうかを判定する試験で、5本の紙からにおいの基準臭（第一薬品産業）のついた紙を2本選ぶというものである。これを5種類において繰り返し、すべて正解だった人をにおいの評価実験の被験者とした。



図3 パネル選定試験の様子

6. におい評価(心理量)

12名の被験者に、木材4試料を閉眼着座姿勢で60秒間嗅いでもらい、心理量の経時変化を測定した。試料の提示順はランダムとし、被験者には知らされない。評価内容はにおいの強さ6段階、快不快度9段階、ツンとするような刺激の3項目である。

心理評価の平均値の経時変化をみると、においの強さは経過時間に伴い弱くなる傾向であるが、【高】が最も強い。当初、においの強さ評価が2番目に強かった【合】は1週間で急激に落ち、以降は弱い状態で推移した。初期では【天】【中】が快適側評価、【高】【合】が不快側評価であったが、1か月後には評価が快適側に近づいた(図4)。

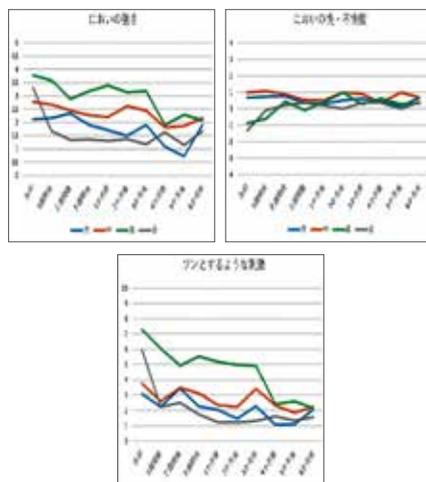


図4 心理量の経時変化(平均)

7. 脳血流量の測定(生理量)

木材の香りによる生理反応として脳血流の酸素飽和度について被験者実験を行った。20～21歳の女性12名に4試料と提示なしの条件で閉眼着座姿勢にて60秒間においを嗅いでもらった。試料の提示順はランダムとし、被験者には知らされない。心理量としてにおい評価アンケートも実施した。計測された値(33チャンネル)を標準化し、タスク(においを嗅いでいる時)とレスト(休憩)の差を見ることで、においによる反応と回復を解析し、被験者の平均をマッピングした(図5)。反応では、【天】【合】の刺激が大きいのが、快不快は対照的な評価であり、生理量と心理量は必ずしも一致しなかった。回復では、【中】【高】と比較して、【天】【合】でにおい刺激が残りやすい部分が多くみられた。これは木材に含まれる化学物質による影響と考えられた。反応、回復ともに【中】は刺激を受けにくい傾向がみられた。

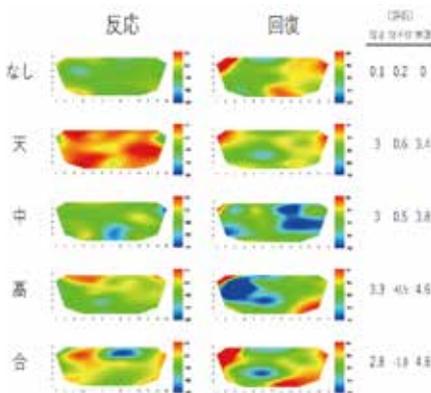


図5 生理量と心理量(平均)

8. まとめ

今回の被験者では快適側評価が多かった【天】は、脳血流では大きな反応が見られやすいため、脳では何らかの刺激として反応しているようであった。「天然」は、体に良いという印象を持つが、含有する化学物質が多すぎると刺激となる可能性が推察された。今回の結果からは、快適側評価で刺激が最も小さく、テルペン量も比較的多く含まれており、さらに表面色の変化も少なかった中温乾燥が使用しやすいのではないかと考えられた。

9. 参考文献

- 1) 木材は人にやさしい/林野庁
www.rinya.maff.go.jp/j/kidukai/con_2_2.html
 本研究にご協力頂いた皆様に心より御礼申し上げます。



中島 隆輔 / 西森 裕十

Ryusuke Nakajima / Yuto Nishimori

清水ゼミ

1. 研究の背景と目的

かつて、商店街は市民にとって生活の基盤であり、まちの賑わいの中心であった。しかし近年、商店街の衰退が著しくなっている。こうした状況を打開するために、全国各地で様々な地域活性化事業が試みられている。

各地で行われている地域イベントの中には、成功している事例もあるものの一過性のにぎわいに終わる事例も少なくない。

本研究では、田原本町の中心市街地で行われるイベント「やどかり市」への参加者および店主、さらに、地域住民を対象にアンケート調査を行い、下記の3点について明らかにする。

- ①一般参加者の評価と店主の意識を確認し、それらの変化を分析する。
- ②イベントが行われる地域住民の「やどかり市」に対する意識を明らかにする。
- ③今後、地域住民が地域イベントの運営に関わる機会を生み出す仕組みを模索する。

2. 調査方法

調査方法については、下記の通りである。

- 1) 文献調査で全国の現状調査
- 2) 田原本町やどかり市アンケート調査実施

表1 やどかり市調査概要

| | 参加者アンケート | | 店主アンケート | |
|-------|-----------|----------|---------|----------|
| 調査対象 | やどかり市 | | | |
| 調査日 | 2016年4月 | 2016年11月 | 2016年4月 | 2016年11月 |
| | 2017年4月 | 2017年11月 | 2017年4月 | 2017年11月 |
| 調査場所 | 田原本町駅前周辺 | | | |
| 調査方法 | 直接配布、直接回収 | | 各商店 | |
| 有効回答数 | 102票 | 100票 | 16票 | 32票 |
| | 101票 | 100票 | 26票 | 20票 |

- 3) 田原本町地域住民アンケート調査実施

表2 地域住民調査概要

| | 地域住民アンケート | |
|-----------|---------------------|--|
| 調査対象 | 近鉄田原本駅周辺の住民 | |
| 配布日 | 2017年10月18日 | |
| 返還期限 | 2017年10月26日 | |
| 調査場所 | 田原本町 | |
| 調査方法 | 自宅へのポストインで配布、郵便にて回収 | |
| 配布数 | 600票 | |
| 有効回答数/回収率 | 142票/24% | |

地域活性化イベントと地域住民の関わり方に関する研究

3. やどかり市について

やどかり市は、近鉄田原本駅と西田原本駅の駅前広場南側に位置する、田原本町の中心市街地で、平成24年度より活性化を目的として開催されているイベントである。

表3 やどかり市概要

| | やどかり市 |
|-------|---------------------------|
| 開催都市 | 奈良県田原本町 |
| 実施場所 | 中心市街地の近鉄田原本駅と西田原本町の駅前広場南側 |
| 期間 | 年二回 |
| 開催期間 | 4年目 |
| 既存店舗数 | 40店舗前後 |
| 来街者数 | 5500人 |
| 会議形式 | ワークショップ会議 |

4. 参加者のイベント満足度は低下傾向



図1 第3回～第6回やどかり市満足度

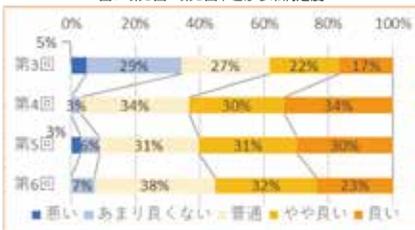


図2 第3回～第6回歩きやすさ5段階評価

調査結果より、イベント全体の満足度は回を重ねるごとに低下していることが分かる。(図1)

また参加者アンケート調査の要望を受けて、歩行者天国の実施を開始した第4回の歩きやすさの満足度が向上し、それとともに、全体の満足度も向上したことが分かった。(図2)今後、課題を改善していくことにより、イベントの満足度が向上する可能性があると言えることが分かった。

5. 参加意欲は向上しているが、新たな取り組みを模索している商店主



図3 第3回～第6回「やどかり市」定期的に開催してほしいか

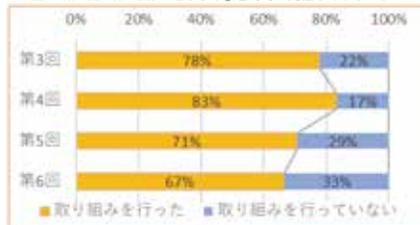


図4 第3回～第6回独自の取り組み

図3より、売上げやほかの店の参加が理由ではなく、地域、町全体の活性化のためという意識が強いことが分かる。地域住民の呼びかけによる参加も減少しており、参加が積極的になってきている。

一方で、図4より、取り組みを行っていない商店主が増えていることが分かる。イベント自体が特別な取り組みを行わなければ参加できないイベントではないため、取り組みが普段の延長線上のイベントが存在し、効果的な取り組みが行えていない状態といえる。

6. イベント運営に協力的な地域住民の存在

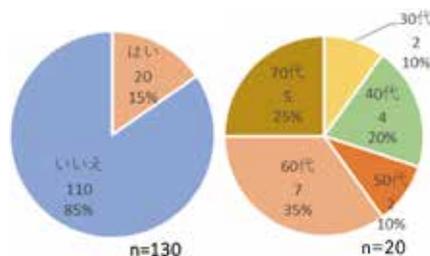


図5 「やどかり市」関連ボランティアへの参加の有無

図5より、やどかり市関連のボランティアへの協力に大多数の地域住民は参加しないと回答した一方で、少数ではあるが積極的な地域住民が存在することがわかった。

図6より、幅広い年代の地域住民が、ボランティアに参加したいと回答した。その中でも、60代以

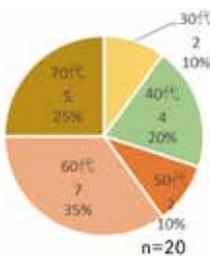


図6 ボランティアに参加したいと答えた年齢層

上が多いことが分かった。比較的時間に余裕のある世代の住民が、地域の活性化に貢献したいと考えていることがわかった。

7. 今後の在り方

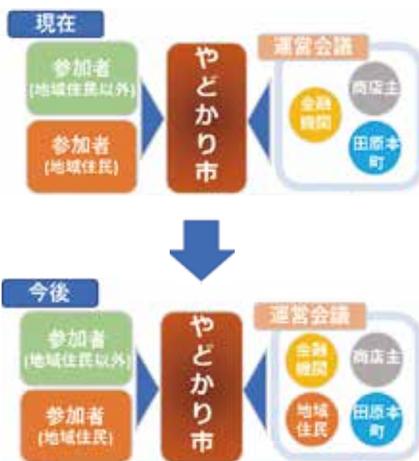


図7 今後のやどかり市のあり方

今回の研究で、イベントに協力したいというモチベーションを持った地域住民が存在することが明らかとなった。現在、イベントの企画運営については商店主、田原本町、金融機関の3者が集まる運営会議にて決定されており、イベントが行われる駅周辺の地域住民は「参加者」としてイベントに参加するというかわり方しかない。しかし、やどかり市は単なる商業の活性化を目的としたイベントではなく、地域の活性化を目的としたイベントであることを加味すると、モチベーションのある地域住民に、運営会議に参加してもらうことで、地域の担い手としての商店街と、そこに暮らす住民のつながりを深めることにつながると思われる。

8. まとめ

本研究では、商店街を中心とした地域活性化の取り組みの一つとして、田原本町を取り上げた。その結果、地域住民にイベントの運営にかかわってもらうことが、今後の商店街を中心とした地域コミュニティの創造につながるのではないかと考える。

実際に地域住民も参加して運営するやどかり市が、どのように改善されるのか、地域住民参加型の組織の在り方の検討が今後の課題である。



仲谷 理沙

Risa Nakatani

東ゼミ

男子大学生の四季における睡眠と生活習慣

1. 研究背景と目的

現代の日本人の特徴として生活の多様化が進み、就寝時刻は時代と共に後退するなかで起床時刻は変わらないため、ますます睡眠時間が短くなっている。世界100カ国の睡眠時間を調査したところ、日本人の平均睡眠時間が最も短いことが分かった（米ミシガン大学調べ）。しかし、近年では睡眠の重要性が再認識されるようになり生活習慣や睡眠環境の整備に対して感心が高まっている。そこで、本研究では大学生の中でも生活が夜型化しやすい男子大学生に焦点を当て、睡眠の実態を調査する。春夏秋冬と四季によって変わる寝室環境や生活習慣や睡眠前行動が睡眠の質に与える影響を調べ、より質の良い睡眠の実現に影響する要因をさぐることを目的とする。

2. 研究概要

【被験者】K大学男子大学生10名

【調査項目】

- ・睡眠の質：OSA睡眠調査票（MA版）
- ・日常生活の状況：生活行動記録
- ・活動量
- ・着衣の状況：服装調査（clo値）
- ・温熱環境、光環境：温湿度（居間・トイレ）
照度・温湿度（寝室）
- ・生理機能：体温、血圧

【調査期間】

春季：2017年5月 夏季：2017年7-8月

秋季：2017年10-11月

冬季：2017年12月-2018年1月

【調査方法】

被験者の自宅（寝室、居間、トイレ）に温湿度計

を設置するとともに、調査期間中、日常の生活行動を記録した。内3日間は服装調査やOSA睡眠調査などを細かく記録し、睡眠の質と四季による生活習慣の変化を調査した。

3. アンケート調査

被験者の生活実態や睡眠に対する意識を調査するためにアンケート調査を行った。特徴として、就寝前のスマホ使用や寝落ち頻度が多く、現代の若者の生活習慣における問題点が分かった（図1）。また、就床時間は平日、休日ともに遅い傾向があり、休日には2時以降に就寝する割合が多かった。起床時間は平日と休日の差がみられ、休日には8割以上が9時以降に起床していた（図2）。睡眠の満足度、寝室環境はともに良好であったが、寝室温熱環境では冬季に不満を感じる割合が多かった。



図1 生活習慣の問題点

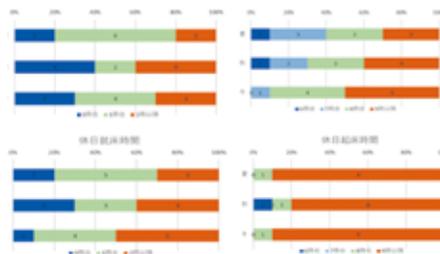


図2 平日と休日の起床・就床時間

4. 実測調査

4-1 環境と活動量

就寝時の寝室環境と調査するため季節ごとの寝室温湿度を調査した。活動量は多機能万歩計（エステラ,FS750）で計測した。

【温熱環境】

- ①春季：被験者全員が温湿度ともに過ごしやすい環境であった。
- ②夏季：個人差はあるが、3日間平均で30℃以上の高温環境で過ごす事例もあった。
- ③秋季：温度は被験者全員が適温範囲であったが、平均湿度は約半数が70%程度であった。
- ④冬季：全体的に平均温度が低く、湿度は秋季と同様の傾向がみられた。

【歩数】

平均温度が下がる冬季にかけて歩数（活動量）は減少傾向にあった。

4-2 睡眠時間とOSA睡眠調査

睡眠の質についてOSA睡眠調査票¹⁾を用い、以下の因子について分析した。

第1因子：起床時眠気/第2因子：入眠と睡眠維持/第3因子：夢み/第4因子：疲労回復/第5因子：睡眠時間

睡眠時間の結果をみると、季節差は少ないが、日による変動に個人差がみられた（図3）。

OSA得点に影響する要因として、起床時間の変動が比較的小さい群（9時半までに起床・起床時間の変動が3時間以内）とその他に分けて比較すると、起床リズムの良い場合に因子得点が高い傾向がみられた（図4）。

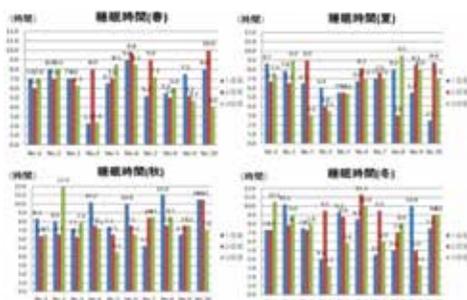


図3 季節別睡眠時間

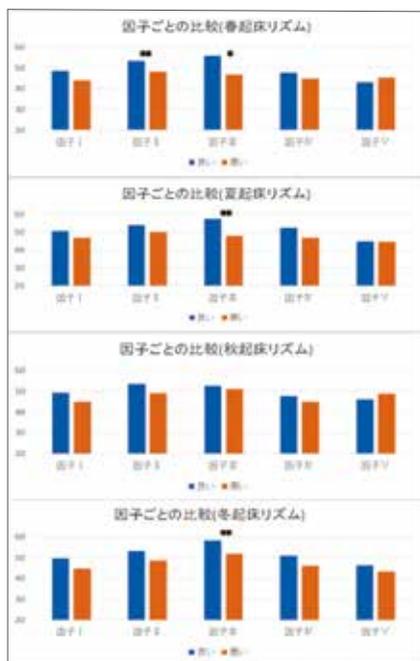


図4 起床リズムからみた因子得点

5. まとめ

対象とした男子大学生は、就寝前にスマホを使用し、昼間に眠気を感じていることが分かった。寝室の温熱環境は、春季と秋季は快適範囲であったが、夏季には高温、冬季には低温の事例がみられ、不満を感じていた。今回の寝室環境の範囲内においては、OSA得点との直接的な関連性はみられなかった。比較的質の良い睡眠が取れていたのは、季節を通して「規則正しい起床リズム」を実践している被験者であった。大学生特有の生活習慣として毎日の起床時間に自由度が大きいこと、起床時間が遅くなることにつながり、それが睡眠の質に影響していると考えられた。

参考文献 [1] 山本由華史, 田中秀樹, 高瀬美紀, 山崎勝男, 阿住一雄, 白川修一郎: 中・高年齢者を対象としたOSA睡眠感調査票(MA版)の開発と標準化. 脳と精神の医学 10: 401-409, 1999



長井 詢

Jun Nagai

清水ゼミ

地域ブランドを創出する地場産業のあり方に関する研究 ～西脇市と広陵町を事例として～

1. 研究の背景と目的

近年、日本の各地では、地方分権による自治体の財源確保の困難や、地域全体の産業を分業制で生産してきた小規模企業の疲弊などから、地場産業が衰退している。その課題を解決するために、各地で様々な試みが行われているが、その一つとして地域ブランドの創出による地域活性化戦略があげられる。

地域ブランドの創出は、大企業の誘致による開発ではなく、地元の技術・産業・文化などを基盤として、特産物や地域産業、地域自体のブランド化によって、地域全体の活性化を図る試みである。地域ブランドについては様々な研究が行われているが、地域の特性によって、その効果や、効果的な手法は多岐にわたるため、事例研究を行うことで、多くの地域の実態を明らかにして、地域に合わせた手法を検討することが重要であると考えられる。

本研究では、地域ブランド創出を行う地域の例として、兵庫県西脇市の「播州織」、奈良県広陵町の「広陵靴下」を取り上げ、①地場産業における産業の構造の実態、②産業の構造に応じた地域ブランド創出のありかたの2点を明らかにする。

2. 研究方法

- ・西脇市、広陵町の両地域の地域概要、地場産業の変遷を文献調査にて実施した。
- ・ブランド化における活動の内容を、行政・組合へヒアリング調査を実施した。
- ・両地域のブランド化における優れた点、改善すべき点を比較し、改善点を明確にした。

3. 西脇市における産業の特徴とブランド化に向けた動き

播州織産地は、産元と呼ばれる組織がア

パレル商社などから仕事を受託し、染色、機織、加工を行う各組合へ仕事を委託する構造であった。委託された組合はさらに組合に属する個人企業等へ委託するような仕組みである。(図1)



図1 播州織における産地構造

平成18年、播州織の衰退に歯止めをかけるため、産元、染色、機織、加工の4組合が集まり、播州織ブランド委員会が立ち上がった。西脇市役所の援助を受けながら、産元組合が主体となって物事を進めている。(図2)



図2 播州織組織の展開

ブランド委員会では、播州織における品質基準を設け、それを証明するロゴマークの制定もなされた。ロゴマークは、最終製品を取り使う企業が使用したい場合のみ貼付される。

4. 広陵町における産業の特徴と ブランド化に向けた動き

広陵靴下産地では、個人企業が販売元から直接、仕事を受託する仕組みが多くみられた。受託生産のみで営む企業、受託生産と同時に自社ブランドを市場に回す企業、自社ブランドのみで事業を営む企業の3つのパターンの集積で成り立っている。尚、個人企業が内職などにさらに委託する形態も存在するが、現在は少数であった。(図3)

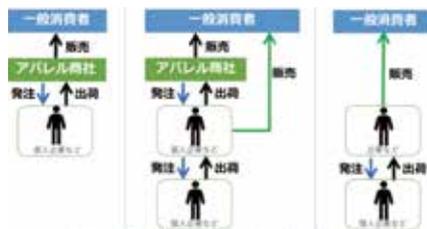


図3 広陵靴下における産地構造

平成28年、広陵町役場が先頭に、広陵町商工会、広陵町靴下組合をはじめ、産官学連携でブランド創出を図るため、各機関を招集し、地域活性化をめざす中小企業等検討会を設置した。委員会では、広陵町が主体となっておりまとめている。(図4)



図4 広陵靴下組織の展開

検討委員会では、広陵ブランドを示すものとしてロゴマークを制定した。ロゴマークの使用の品質基準は定めておらず、広陵町内で生産されたもののうち、最終製品を取り使う企業が使用したい場合にのみ貼付される。

5. 両産地の分析

① 両産地共通課題

1) 地域ブランドが浸透しにくい生産形態の課題

ロゴマークが貼付されるのは受託先の企業が使用したい場合のみである。しかし、ロ

ゴマークを使用したい企業は一部であり、最終製品が地域ブランドとして周知されないのが、問題点である。受託先に積極的にロゴマークの使用の協力を要請するなど、日本経済という広い視点に立てば、必要であるといえる。日本の産業を支える中小企業の発展こそが、国全体の経済を発展させることにつながる。地域ブランドは、地域一体となって作り上げることが、さらなる地域の魅力へとつながると考える。

② 産地により異なる課題

1) ロゴマーク設置基準

播州織の場合は品質基準が一定以上クリアものにロゴマークが付けられるため、ロゴマーク自体の信頼性が生まれる。しかし、審査には企業同士の協力が必要であり、また、信頼性を確保するための公平な視点が必要となる。一方、広陵靴下では、ロゴマークの使用の品質基準が定められていないため、ロゴマークの使用は比較的容易である。一方で、ロゴマーク自体に品質の信頼性を確保しづらいため、個々の企業努力による品質確保が必要である。

2) 産地構造の違い

西脇市においては、産地全体で製品を生産してきたこと、産地全体で分業制であることや、産元が産地を取りまとめていることから、横のつながりがあり、産地全体がまとまりやすく、ブランド化にも積極的である。一方、広陵町は、縦の繋がりで構成されているため、企業間の横の繋がりが少ないことから、産地が主体となってブランド創出に至ることが難しい産地構造であることが明らかとなった。このような構造をしている産業形態には、企業の間を取りまとめる組織の介入や、新しいコミュニティを構築する必要があると考えられる。

6. 結果

本研究では、地域産業の生産体系や、市場に出回る仕組みなど、各地の地域産業によって、様々な形態があることが分かった。また、地域産業におけるブランド創出の過程は、その地域の産業の構造に応じて異なることが分かった。しかし、あくまでも、改善策は一例であり、さらなる成功事例の調査・研究が必要である。



専育ママの自己実現を目指した 子育て支援事業のあり方に関する研究

丸岡 沙耶可

Ayaka Maruoka

清水ゼミ

1. 研究背景・目的

現代の日本における、育児期の親をとりまく環境は、核家族化、都市化、地域コミュニティの希薄化などにより、大きく変化している。子育ての支援のための拠点は年々増加しているものの、育児期の親を取り巻く環境が劇的に改善したとはいえない。本研究では、1日中子育てをする母親と、母親の自己実現について、表1のように定義づけた上で、

表1 専育ママ及び母親の自己実現の定義

| |
|--|
| 定義1 専育ママ |
| 0歳～未就学児の子どもと1日中向き合い、養育に専念している専業主婦及び育児休暇を取得中の母親 |
| 定義2 母親の自己実現 |
| 母親が子育てをする毎日の中で、自己の能力や個性を実現させて、理想となる自己へ近づくこと |

子育て支援事業のあり方に着目し、下記の3点について明らかにする。①奈良県で展開されている子育て支援事業の現状把握 ②育児期の親が求めている子育て支援内容の検討③子育て支援事業のあり方の検討

2. 調査方法

まず、奈良県内の子育て支援事業所とイベント内容を把握するために、表2の通り調査した。

表2 調査1：子育て支援イベント内容の調査概要

| | |
|--------|-------------------------------|
| 調査対象 | 奈良県内の親子を対象とする 子育て支援事業のイベント |
| 調査対象期間 | 平成28年1月～12月に 開催されたイベント |
| 調査対象地域 | 奈良県各市 12市 |
| 調査方法 | 奈良県各市の広報誌 |
| 総イベント数 | 2015件 |

続いて、専育ママの自己実現の状況を把握するために表3表4の通り、調査を実施した。

最後に、先駆的なイベントの取り組みを行う、奈良市つどいの広場「ぶらんぶらん」（以下：ぶらんぶらん）の運営や事業内容の決定方法を把握するために、表5の通り、調査した。

表3 調査2：奈良市つどいの広場 調査概要

| | |
|-------|-------------------------------|
| 調査対象 | 「ぶらんぶらん」利用者である専育ママ |
| 調査場所 | 奈良市サタウンプラザすずらん館 |
| 調査方法 | 専育ママに直接アンケートを配布・回収、結果を基にヒアリング |
| 調査日 | 12月 |
| 有効回答数 | 5 |

表4 調査3：御所市子育てサロン 調査概要

| | |
|-------|-------------------|
| 調査対象 | 御所市子育てサロン利用者の専育ママ |
| 調査場所 | 御所市いきいきライフセンター |
| 調査方法 | 専育ママに直接ヒアリング |
| 調査日 | 7月 |
| 有効回答数 | 8 |

表5 調査4：御所市子育てサロン 調査概要

| | |
|------|----------------------|
| 調査対象 | 奈良市つどいの広場「ぶらんぶらん」の職員 |
| 調査場所 | 奈良市サタウンプラザすずらん館2階 |
| 調査方法 | 職員に対し直接ヒアリング |
| 調査日 | 12月 |

3. 親子向けイベント内容の割合調査

3.1 子育て支援事業のイベント内容の定義

イベント内容の割合を調査するにあたり、子育て支援事業の親子向けのイベント内容を表6のように定義付けした。

3.2 現状と理想のイベント割合

調査1からは、奈良県内で実施されている「Ⅳ：子どもと一緒に親の自己実現ができるイベント（以下：Ⅳ自己実現イベント）」の割

合が明らかとなった。(図1)しかし、過去の研究より14%程のシェアが理想的であると考えられるため、奈良県内のIV自己実現イベントの割合は増やす必要があると言える。

表6 子育て支援事業のイベント内容の定義

| |
|---|
| I : 専門職員による子ども向けイベント |
| 専門職員やボランティアによる遊びや読み聞かせ、歌など子どもの発達教育のもの ○育児というフィルターを通した体験 |
| II : 子どもと親のふれあいイベント |
| 親子を対象にしており、子どもと親がふれあい、一緒にダンスや工作等を行うもの ○育児というフィルターを通した体験 |
| III : 育児に関する親向けイベント |
| 専門職員による産科講座や食育講座などの育児講座や、育児についての相談会を実施するもの ○育児というフィルターを通した体験 |
| IV : 子どもと一緒に親の自己実現ができるイベント |
| 親自身が楽しみ、かつ子どもと一緒に楽しめる自己実現が可能なもの ○育児というフィルターを通さない直接的な体験 |

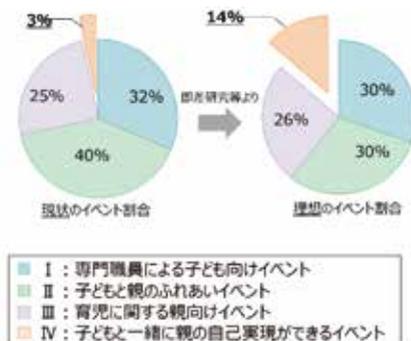


図1 現状と理想のイベント割合

4. 専育ママの意識調査

奈良市のつどいの広場「ぶらんぶらん」で実施した「調査2」、御所市の子育てサロンで実施した「調査3」からは、専育ママは自身の行動や時間に制限がかかり、したいことができないため、負担や不満を抱えているが、常に母親でいなければならないという考えから、仕方なくあきらめていることが明らかとなった。さらに、専育ママは子どもの自由な振る舞いが周囲へ迷惑になっていないか気にする傾向にあるため、多世代が集まる活動に参加す

ることを躊躇している人が多いという傾向が見られた。一方で、IV自己実現イベントとしてやってみたいこととして、エクササイズ、ボクシング、格闘技や、音楽鑑賞、料理、家庭菜園など多彩な内容が挙げられた。

5. 運営形態調査:「ぶらんぶらん」

自己実現イベントを多く実施する「ぶらんぶらん」について、運営やイベントの選定方法などの知見を得るため実施した「調査4」では、子育て支援事業を受託運営をしている母体のNPO法人「Msねっと」の存在が大きく寄与していることが明らかとなった。もともと「Msねっと」は主催者が専育ママをしていた経験から、専育ママの自己実現を目指してできた団体であった。職員が母親にとって、居心地がよくなるよう意識した接し方や、空間づくりがきっかけで産まれていた。「ぶらんぶらん」では、母親が何気なく言った要望を職員が汲み取り実現できるようにサポートする取り組みや積極的な発言できる雰囲気作りを心がけていることが明らかとなった。

6. まとめ

①奈良県における子育て期の母親にとって自己実現となるイベントの割合は僅か3%と、理想とした14%の割合より低く、母親のケアを意識した支援が不足していた。

②専育ママには、自己実現欲求はあるものの、子育てによって仕方なく諦めている状況にある。しかし、子育て支援事業所に自身への刺激を求めて来ている人も少なくない。専育ママ達は、子どもがいることで、周りに気を遣わなくてもよい場で、何かをしたいと考えているため、与えるだけではなく、やりたいことに応えられる体制が必要である。

③子育て支援事業所では、母親が自己実現できる、きっかけ作りとしての場を提供する必要がある。現在は、行政からの支援内容の指定は特になく、各施設で内容のバラつきが大きいため、支援内容のバランスをとる仕組みづくりが必要であると考えられる。



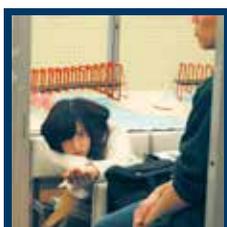


畿央大学 健康科学部 人間環境デザイン学科 第12回 卒業研究講評会

全体発表会 2018年2月 9日 10:00~16:30

選抜発表会 2018年2月13日 13:00~17:00

会場:KB04教室



選抜発表者

荒木田 夢華

川井 あすか

久斗 彩美

島田 咲紀

田村 光

辻村 誠

中澤 安紀

中村 大志

藤田 直樹

前垣 祥子

前川 恵

松下 由依

森本 真子

以上13名 13グループ



平成 29 年度 卒業研究



学長賞 中村 大志

優秀賞 荒木田 夢華 田村 光

前垣 祥子 以上 4 名 4 グループ







三井田ゼミ

Koki Miida

建築
まちづくり計画

加藤ゼミ

Shinki Katoh

インテリアデザイン
住宅設計
店舗・家具デザイン
環境デザイン



李ゼミ

Wonjon Lee

色彩

東ゼミ

Michiyo Azuma

生活環境学
住居学
人間工学





藤井ゼミ

Toyofumi Fujii

住宅・建築・都市等の
建築関連分野



西山ゼミ

Noriko Nishiyama

インテリア計画
インテリアデザイン



清水ゼミ

Hiroko Shimizu

商店街活性化
福祉のまちづくり



村田ゼミ

Hiroko Murata

生活科学
被服類



畿央大学

人間環境デザイン学科

卒業研究作品展

2018年3月10日(土) 10:00-18:00

3月11日(日) 10:00-16:00

大和高田さぎんかホール

奈良県大和高田市本郷町 6-36

TEL 0745-53-8200



たくさんのご来場ありがとうございました。

講評

作品が完成して嬉しそうな学生たち

今年も人間環境デザイン学科の卒業研究・作品発表会を拝見しました。会場へ入っていくと学生たちは自分の作品を嬉々として説明してくれました。建築物であれば自分が設計したこの建てものを実際に建ててみたいという気分が感じられました。街並みの設計であれば自分がそこに住んだり、歩き回ったりしてみたいという気持ちを受け取ることが出来ました。被服の制作であればそれを着て街を歩きたいという雰囲気でした。毎年拝見しておりますが、二つとして同じものはありません。各自が独自のアイデアをもって制作にあたってこられたのですね。他人と違ったアイデア。これこそが学問の分野でも、芸術の分野でもあるいは企業などの生産活動や、サービスの分野でも重要なものなのです。斬新なアイデアで他の人に訴え掛ける。卒業を前にしてそのような“修業”をしたことの集大成が卒業研究・作品発表会なのです。建学の精神の一つ「美を作る」に一番近づき、みずから身をもって実現しているのが人間環境デザイン学科で学ばれた皆さんではないかと思います。

どうかこれからもこの精神を忘れずに自分の成果に自信を持ち、この思い出とともに元気よく社会へ羽ばたいてください。皆さんのこれからの姿を見守っていきたいと思っています。皆さんの今後が楽しみです。

健康科学部 学部長
金子 章道

「卒業研究、卒業制作をやりきった」と自信を持って言える人はどのくらいいるだろう。
多くの諸君は不完全燃焼でおわったのではないだろうか。
人生、再度のやり直しはきかない。
君たちの本当の勝負は卒業し、社会に出てから始まる。
この次は悔いを残さないように、おもいきり「きばって」ほしい。
西郷隆盛は、次のような言葉で薩摩の若者たちを鼓舞した。
私もその言葉を君たちに送りたい。

『丈夫は玉碎すとも、^{せんぜん}輒全を恥ず』

人間環境デザイン学科 学科長
三井田 康記

卒業研究、制作を終えた皆さんと、ゆっくり語り合いたい気持ちです。
これから先の人生で、ふと大学生活を振り返った時、あの頃は頑張ったな、輝いていたな、と
未来の自分に褒めてもらえそうですか？
今年の冬季五輪では若手の活躍がめざましかったですね。挫折をバネに栄光を掴んだ選手も
たくさんいました。皆さんも、失敗すること、間違ふこと、恥をかくことに対して、どうか過
剰に反応しないでください。現状から踏み出す一歩を恐れずに、経験値を積み重ねていって
ください。
3年間、ゼミ生は4年間担任した学年でした。入学当初の仲の良い雰囲気を残しながらも、
個性豊かに成長した皆さんを頼もしく思います。
ご卒業おめでとうございます。今後のご活躍を祈念しています。

人間環境デザイン学科 主任
東 実千代

4月に卒業研究ゼミがスタートした時、とても感心したことがあります。それは、テーマを決めるに際し、皆さんがとてもやさしい気持ちを持って、制作により人の生活の支援を考えようとしていたことです。そのやさしさが、何度も挫折しながらも、ぶれずに最後までやり遂げる力となったと思います。私たちは今、人間環境デザイン学科ならではの卒業研究ができたことを胸を張りましょう。

猛暑の中、現地調査に行ったり、近隣住民にヒヤリングをしたりと頑張った一方、しんどさにめげて逃げ出しそうになり、怒鳴られたこともありましたね。振り返るとあっという間ですが、皆さんはずいぶんと成長しました。皆さんのおかげで私も少し成長したように思います。ご卒業おめでとうございます。そして、ありがとう。

西山 紀子

頑張った人も頑張らなかつた人もいました。頑張った人にはそれなりの成果がありました。特に〇〇君△△君××君、素晴らしい作品を見せてくれて有り難う、君の努力と成果に敬意と祝意を送ります。

しかしながら誰の作品にも、たぶん君自身が気付いているように、手放しに褒められるものはありませんでした。全ての作品になにがしかの不足があったのです。不足していたのは、「挑戦」であつたり「思索」であつたり「理解」であつたり「努力」であつたり「時間」であつたり・・・最後に、それが何であつたかを問い直してみてください。悔やむ必要はありません。「人生に失敗がないと、人生を失敗する(斎藤茂太)」のだから。ただ、人生を失敗しないために、得た失敗を次なる成功への糧にされることを望みます。

今、君たちと過ごした幸せな時間を思い出しています。いつか、大学生活の思い出と新たな世界の報告を着に、また一杯やりましょう。

藤井 豊史

それぞれの想いがつまった研究・作品ができましたね。例年と比べて今年の評価は難しいものでした。理由は全ての研究や作品に個性があり、全てが素晴らしかったからだと思います。正に多様性の時代といえるでしょう。デザインは限られた分野に留まらず、あらゆる社会に浸透しています。デザインは色や形だけのものではなく、あくまでも人間の視点に立ちながら環境を考えた中で行われるものです。職場は違っても人間環境デザインの視座を忘れないでほしい。

僕にとっても卒業制作は原点です。勝手ながらこの場をお借りしてお蔵入りになった39年前の卒業駄作を掲載することをお許し下さい(小さっ！)。当時は講評会も発表会も卒業展も作品集も何もなく、実は皆が羨ましかつたのです。「都市商店1979」(超縮小版:A1ケ外紙12枚+模型)



加藤 信喜

卒研がスタートした4月からゼミ室、実習室前の廊下で多くの学生さんと出会うようになりました。

授業で出会うことがなく「はじめまして」の学生さんもたくさんいましたが、すれ違うときに研究の進み具合だけではなく、他愛も無い会話を交わすのがとても楽しみでした。

卒業研究発表会当日、会場に並んだ皆さんの作品を見て、R棟3階での1年間で思い出され、目の前の作品は単なるものではなく、あなたがたそのものだと感じました。

その頃、通勤途中のラジオから「才能をあきらめることである」という言葉が流れてきた。

何かを達成するためには、遊びをあきらめる、眠るのをあきらめる、多くのことをあきらめる覚悟が才能を開花させるのではないかとということでした。

なかなか簡単にできることはありませんが、いつときいつとき一生懸命の積み重ね、そして時には「あきらめる覚悟」の人生が才能を開花させるかもしれません。

巣立っていくみなさん、私はあなたたちの成長を楽しみにしています。

村田 浩子

畿央大学で学んだ「集大成」を約1年の時間をかけて「卒業研究」というかたちとして仕上げることができました。4年間の大学生活、特に4回生の1年間で振り返ってみてください。なかなか終わらない就職活動に決められない研究のテーマが重なり、厳しい時間を過ごしたことを。悩みの時間が長かった分、得られた結果に対する満足感と達成感は格別なモノになったはずです。苦労したことも楽しかったことも今や決して忘れられない素敵な思い出となり、今後この貴重な経験が社会人の仕事においてしっかりと活かされることに間違いのないと思います。卒業おめでとう！自分を信じて前向きに頑張ってください。いつも陰ながら応援しています。ファイト～

李 沅貞

今年は、どの作品も甲乙つけ難いくらいに良かったと思います。なによりも、優秀者が発表させた時、選ばれなかった人も同じように声をあげて喜び拍手する姿に、熱いものを感じました。四年間の集大成が完成し、あなたは、今どのような気持ちですか？よくやったと自分を褒めたい人、まだまだ出来たはずだと思っている人、三者三様に本誌を手にとっていることと思います。結果で一喜一憂するのではなく、結果を受け止め、次の人生のステージに活かすことこそが、成長の鍵を握りますので、どうぞ、今の気持ちを大切にしてください。

伴走してきた教員も、これからは共に歩むことは出来ません。しかし、いつまでも、あなたがたの応援団です。今まで通り気軽にきてください。いつでも、研究室で待っています。

ただし、ノックはお忘れなく。

清水 裕子

卒業制作・卒業論文は「一期一会」だと思います。

そのプロセスの中で、考えたり、悩んだり、楽しんだり、苦しんだり、諦めずに頑張ってきた皆さんに賞賛を差し上げたいです。

自分がやりたいことを決めて、関心のある課題に取り組んで、解決の道を辿って、一生忘れない経験になったでしょう。畿央大学で精一杯頑張ったつくりあげた卒業制作・卒業論文は、きっと皆さんの心の中に残っていくと思います。

そして、その成果はただの終止符ではありません。卒業1年後も、3年後も、10年後も、課題の関心を続けて、常に考え直してみれば、自分の視点が変わっていくかもしれません。それは自己成長の証になります。

今後、皆さんのご活躍をお祈りします。

陳 建中

皆さん、お疲れ様でした。

4年間の集大成として、自分の作品に満足している学生は何人くらいいるでしょうか。

講評の際、皆さんの表情を見ていると、満足気に話す人、モヤモヤした表情で話す人、様々な思いが伝わってきました。一生懸命な皆さんの姿に大学時代の自分を重ねて思い返していました。当時の私は「自分にできることはやりきった！誰に何を言われようこの作品が一番！」と悔いなく清々しい気持ちでいたように思います。でもそれは、たくさんの方の助けや知恵、出会いがあったからだとも思っています。

誰だって限られた時間の中で最大限の力を発揮するのは難しいことです。

自分なりに精一杯頑張ってきたうえで、どうしてもできない部分や助けてほしい部分があるなら、私は周りの人に頼ることも大事だと思います。大学4年間でたくさんの方の出会いがありましたよね。忘れないでください。私はこれからもずっとみんなの味方です。

卒業おめでとう！！

中井 千織

畿央大学
健康科学部
人間環境デザイン学科 教員

教授

学部長 金子 章道
学科長 三井田康記
主任 東 実千代
西山 紀子
藤井 豊史

准教授

加藤 信喜
村田 浩子

講師

李 沅貞

助教

清水 裕子

特任助教

陳 建中

助手

中井 千織

編集委員

中井 千織
足立 夏希
宇野 瑠莉
菰田 栞理
島田 実保
清水 星花
辻本 茜
山根 寿奈
吉田 直人
阿草 憲蔵
太秦 柚香里
田口 功太郎
竹葉 海翔
服部 七海
藤本 隼輝
藤原 朋香
松岡 聖奈
松本 侑伽
村田 遼太郎
山下 和也

以上

「卒業制作・論文作品集」12

2018年3月15日 発行

発行 畿央大学

健康科学部 人間環境デザイン学科

代表 学長 冬木 正彦

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2

印刷 株式会社 明新社